

シラバス基本情報

1. 開講年度	2024		2. 開講学期	第2学期		
3. 開講学部・学科等 ／区分等	共通教育		4. 授業形態／授業種 別	eラーニング		
5. 授業科目区分／科 目分野／科目区分／ 区分等	2023年度以前 教養科目 キャリア形成支援分野 2024年度以降 キャリア形成		6. DPコード／分野コー ド／科目ナンバリング			
7. 科目名／科目英文 名／英文併記	(日本語名) 業務効率化のためのIT活用入門 (英文名) Practical Use of Excel and Scripts for Business efficiency					
8. 副題(日本語・英 語)	(日本語名) 面倒なことはExcelとスクリプトで片付けよう (英文名) Semi-automate the Boring Stuff with Excel and Scripts					
9. 担当教員名(教員 ローマ字表記)	(日本語) 高畑 貴志 (ローマ字) TAKABATAKE Takashi					
10. 時間割コード／申 請コード／授業コード			11. 昼夜			
12. 単位数	1		13. 選必修区分／単位区 分	なし		
14. 対象学生	全学部全学科		15. 対象年次／区分等 ／標準履修年次	なし		
16. 曜日・時限	なし		17. 講義室			
18. 履修推奨科目	自大学 学生向け	なし	19. 関連科目(関連科 目コード番号)	自大学 学生向け	なし	
	連携大学 学生向け	なし		連携大 学 学生向け	なし	
20. 授業のキーワード ／英文キーワード (3 つ以上5つ以下)	業務効率化, Excel, スクリプト処理, バッチ処理 Business efficiency, Excel, Script processing, Batch processing					
21. 授業概要	<p>日々の業務における「ひとつふたつであれば簡単に終わる単純な処理」が大量かつ頻繁に発生する状況を想定し、IT技術を用いた半自動化により業務を効率よく処理する技法を身に付けます。このような処理の具体的な例を挙げます(授業で学べば、短い時間でできるようになります)。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・複数の名簿リストを統合し、重複をなくして整える。 ・多肢選択単一回答式のアンケートを、問題数に関係なく一定の時間で集計する。 ・複数のグラフに、同一の複雑な書式を、各グラフにつき一時間で適用する。 ・項目名とURLの対応表から、webページに貼れるハイパーリンク付きの項目名一覧を生成する。 ・対応表をもとに、複数のファイルの名前を一括して変更する。 ・表形式のデータから、特定の条件に該当するものを抽出する。 ・表形式のデータを、属性の値ごとに集計する。 <p>手軽に活用できるよう、Microsoft Excel を中心に「プログラミング」まで踏み込まない範囲の技法を扱います。</p> <p>また、大学が所在する地域に関する統計データを扱うことで、地域の地域に対する理解を深めます。</p>					<input checked="" type="checkbox"/>
22. 授業の目的及び 主旨／授業科目の主 題	1.日々の業務で発生する「ひとつふたつであれば簡単に終わる単純な処理」を、IT技術を用いた半自動化により効率よく処理する技法を身に付ける。					<input checked="" type="checkbox"/>

	2.大学の所在地や日本に関する統計情報を、表計算ソフトを用いて処理できるようになる。			
23. 授業の到達目標 ／学修課題	<ol style="list-style-type: none"> Excelが大量の業務を効率よく処理する原理を理解できる。 Excel に用意された大規模データ集計に向くツールを5つ挙げ、その機能を説明できる。 スクリプトによるバッチ処理の概要を説明でき、自分のPCで実行できる。 web上で公開されている統計データを探し、Excelに取り込める。 1～4を統合して、自分の目的に応用できる。 	<input checked="" type="checkbox"/>		
24. ディプロマ・ポリシー (卒業時の到達目標・共通教育の理念・教育方針に関わる項目)				
25. カリキュラムマップ (授業科目の主題・授業科目の到達目標とカリキュラムマップ)				
26. 授業スケジュール ／授業計画並びに授業及び学習の方法	<p>【授業計画】</p> <ol style="list-style-type: none"> イントロダクション・Excelの基本1 Excelの基本2 置換・並べ替え・条件判断の活用 アンケートの集計 文字列の処理・スクリプト処理 統計データの利用・フィルタ機能の活用 ピボットテーブルの利用 総合演習(自分でテーマを設定したデータ処理の実施) <p>【授業の進め方】</p> <ol style="list-style-type: none"> Moodle上の資料を読み知識を身に付ける。 身に付けた知識を確認するために用意された問題を解く。 資料で学んだ知識と確認用の問題に関する確認用の小テストを受ける。 最終課題では、自分の興味に応じて学んだ知識の応用に挑戦する。 身に付けた知識の最終確認のため、期末試験を受ける(2回まで受験可、平均点で評価) <p>Moodleコース内には、参加者同士が情報交換できる掲示板を設けます。</p>	<input checked="" type="checkbox"/>		
27. 授業時間外学習 にかかわる情報	<p>講義受講型ではないため、授業時間内・授業時間外という枠はありません。</p> <p>eラーニングシステム moodle上のコンテンツを確認した上で、提示された活動に取り組んでもらいます。</p>	<input checked="" type="checkbox"/>		
28. 成績評価の方法 と基準	<ul style="list-style-type: none"> ・確認テスト35% ・期末試験40% ・総合演習で作成した課題18% ・総合演習で他の受講生が作成した課題にコメントすること 7% <p>単位の修得には60点以上の成績が必要です。</p>	<input checked="" type="checkbox"/>		
29. 再試験の有無	<table border="1"> <tr> <td>自大学学生向け</td> <td>なし</td> </tr> </table>	自大学学生向け	なし	
自大学学生向け	なし			

	連携大学学生向け	なし	<input checked="" type="checkbox"/>																																											
30. 受講の条件／先行科目／受講人数制限	受講人数制限:あり 香川大学15名・徳島大学15名・鳴門教育大学15名・高知大学15名・愛媛大学15名		<input checked="" type="checkbox"/>																																											
31. 受講のルール履修上の注意・担当教員からのメッセージ／履修希望学生に求めるもの	<p>この授業では、受講生の皆さんに1～4を求めます。</p> <p>1.基本的なパソコン操作</p> <ul style="list-style-type: none"> ・フルeラーニング科目です。インターネットを介し学習コンテンツにアクセスし、パソコンで作業を行う必要があるため、パソコン操作は必須です。 <p>2.パソコンの環境</p> <ul style="list-style-type: none"> ・インターネットに接続可能で、Microsoft Excelが使用可能なパソコンを利用できる環境が必要です。パソコンのOSは、Windows (10以降) を想定しています。 ・自分が所有するパソコンでなくても結構です。(パソコン実習室などの利用でもよい) ・Microsoft Excel のバージョンは、2016以降を想定しています(余程古いパソコンでなければ大丈夫でしょう)。 ・macOS + Excel for Mac でも、ほとんどの部分是对应可能ですが、一部の項目には Windows パソコンが必要となります。 <p>3.自律力</p> <ul style="list-style-type: none"> ・授業時間という強制的な仕組みがないため、主体的に取り組む姿勢や、自分で計画を立てて持続できる自律力が重要になります。 <p>4.質問できる積極性</p> <ul style="list-style-type: none"> ・PCの操作が大きな比重を占めます。eラーニング上の資料だけでは十分に理解できないことやうまくいかないことに遭遇する可能性が少なからずあります。分からないことを分からないままにするのではなく、質問により解決する姿勢が重要です。そのような姿勢は、社会でも役立つことでしょう。(社会では「質問がない＝理解した。できる。」と見なされます。) 		<input checked="" type="checkbox"/>																																											
32. 教科書(購入の必要のある図書)	<table border="1"> <tr> <td rowspan="4">教科書1</td> <td>書名</td> <td colspan="3"></td> </tr> <tr> <td>ISBN</td> <td></td> <td>著者名</td> <td></td> </tr> <tr> <td>出版社</td> <td></td> <td>出版年</td> <td></td> </tr> <tr> <td>金額</td> <td></td> <td>備考</td> <td></td> </tr> </table>		教科書1	書名				ISBN		著者名		出版社		出版年		金額		備考		<input type="checkbox"/>																										
教科書1	書名																																													
	ISBN			著者名																																										
	出版社			出版年																																										
	金額		備考																																											
33. 教科書・参考書に関する補足情報	<table border="1"> <tr> <td rowspan="4">参考書1</td> <td>書名</td> <td colspan="3"></td> </tr> <tr> <td>ISBN</td> <td></td> <td>著者名</td> <td></td> </tr> <tr> <td>出版社</td> <td></td> <td>出版年</td> <td></td> </tr> <tr> <td>金額</td> <td></td> <td>備考</td> <td></td> </tr> <tr> <td rowspan="4">参考書2</td> <td>書名</td> <td colspan="3"></td> </tr> <tr> <td>ISBN</td> <td></td> <td>著者名</td> <td></td> </tr> <tr> <td>出版社</td> <td></td> <td>出版年</td> <td></td> </tr> <tr> <td>金額</td> <td></td> <td>備考</td> <td></td> </tr> <tr> <td rowspan="2">参考書3</td> <td>書名</td> <td colspan="3"></td> </tr> <tr> <td>ISBN</td> <td></td> <td>著者名</td> <td></td> </tr> </table>		参考書1	書名				ISBN		著者名		出版社		出版年		金額		備考		参考書2	書名				ISBN		著者名		出版社		出版年		金額		備考		参考書3	書名				ISBN		著者名		<input type="checkbox"/>
参考書1	書名																																													
	ISBN			著者名																																										
	出版社			出版年																																										
	金額		備考																																											
参考書2	書名																																													
	ISBN		著者名																																											
	出版社		出版年																																											
	金額		備考																																											
参考書3	書名																																													
	ISBN		著者名																																											

	出版社		出版年		
	金額		備考		
34. Webテキスト (URL・説明)	大学連携e-Learning教育支援センター四国(知プラ)ウェブサイト https://chipla-e.ucel.kagawa-u.ac.jp/				<input checked="" type="checkbox"/>
35. パソコン必要度	必要。moodleの操作ができること。	36. 資格等／本科目受 講が必要となる資格等 ／資格取得該当科目	なし		<input checked="" type="checkbox"/>
37. 教員相互参観授 業公開日程					<input type="checkbox"/>
38. オフィスアワー	自大学 学生向け	なし			<input checked="" type="checkbox"/>
	連携大学 学生向け	なし			<input checked="" type="checkbox"/>
39. 連絡先／学生相 談場所／学生開示用 メール	自大学 学生向け	eラーニングシステム(LMS: Learning Management System)上の専用掲示板(フォーラム)で いつでも受け付けています。			<input checked="" type="checkbox"/>
	連携大学 学生向け	eラーニングシステム(LMS: Learning Management System)上の専用掲示板(フォーラム)で いつでも受け付けています。			<input checked="" type="checkbox"/>
40. 教員の実務経験 について	なし				<input checked="" type="checkbox"/>
41. バリアフリー対応	コンテンツは全てテキスト形式(PDFとExcel)です。				<input checked="" type="checkbox"/>
42. その他／備考	moodleの使い方についての問い合わせ先: elmanabi@kochi-u.ac.jp				<input checked="" type="checkbox"/>

2023年2月改訂

シラバス基本情報

1. 開講年度	2024		2. 開講学期	2学期	
3. 開講学部・学科等 ／区分等	共通教育科目		4. 授業形態／授業種別	(e-Learning視聴(教科書を併用する)+ 自学自習(教科書の使用を含む)+小テスト受験)×15回	
5. 授業科目区分／科目分野／科目区分／区分等	2023年度以前 教養科目社会分野 2024年度以降 人文・社会科学系領域		6. DPコード／分野コード／科目ナンバリング		
7. 科目名／科目英文名 ／英文併記	(日本語名) NPOと大学の経営 (英文名) Management of NPO(Non-Profit Organization) and the University				
8. 副題(日本語・英語)	(日本語名) 非営利法人の社会的役割 (英文名) Social Role of the Non-profit Corporation				
9. 担当教員名(教員 ローマ字表記)	(日本語) 岩崎 保道 (ローマ字) IWASAKI, Yasumichi				
10. 時間割コード／申請コード／授業コード			11. 昼夜		
12. 単位数	2		13. 選必修区分／単位区分	無し	
14. 対象学生	全学部全学科		15. 対象年次／区分等 ／標準履修年次	全学部全学科	
16. 曜日・時限	無し		17. 講義室		
18. 履修推奨科目	自大学 学生向け	無し	19. 関連科目(関連科目 コード番号)	自大学 学生向け	03030(大学政策論入門) 03031(非営利法人経営入門)
	連携大学 学生向け	無し		連携大学 学生向け	無し
20. 授業のキーワード ／英文キーワード(3 つ以上5つ以下)	NPO(Not-for-Profit Organization)、大学、非営利法人、公益、経営 NPO(Not-for-Profit Organization), University, Non-profit Corporation, Public interests, Management				
21. 授業概要	<p>当授業は、NPO(非営利組織)の社会的役割及び存在意義を学ぶとともに、学校法人、医療法人、社会福祉法人、NPO法人など各分野の概要や取り巻く経営環境、特徴について四国の状況を含めて解説します。また、NPOの一つである大学の基本的機能(教育研究、社会貢献)及び社会的使命を学ぶとともに、大学がどのような仕組みのもとで事業を展開しているのか明らかにして大学の事業活動を支える、経営管理や組織、財務などの業務内容を解説します。</p> <p>以上を趣旨として、各テーマ(「NPO(非営利組織)の社会的役割」「NPO(非営利組織)の各分野における経営環境や社会的役割、特徴」「フィランソロピーとソーシャルアントレプレナー」「大学の基本的機能」「大学と地域の連携」「人的資源の能力開発」「大学発ベンチャー」など)を取り上げます。</p> <p>授業方法は動画の視聴を基本として、教科書を使用しながら説明します。</p>				<input checked="" type="checkbox"/>
22. 授業の目的及び 主旨／授業科目の主題	<ul style="list-style-type: none"> ・NPO(非営利組織)の社会的役割や公益性を学ぶとともに、社会的ニーズへの対応状況や存在意義について理解を深める ・NPO(非営利組織)の各分野(学校法人、医療法人、社会福祉法人、NPO法人など)を取り巻く経営環境や特徴を把握する ・大学の基本的機能(教育研究、社会貢献)及び社会的使命を学ぶとともに、大学を取り巻く厳しい経営 				<input checked="" type="checkbox"/>

	<p>環境について理解を深める</p> <p>・大学の事業活動を支える経営管理や組織、財務などの業務内容を把握する</p>	
23. 授業の到達目標 ／学修課題	<p>(1)NPO(非営利組織)の社会的役割や公益性とともに、その存在意義が理解できるようになる</p> <p>(2)NPO(非営利組織)における各分野を取り巻く経営環境や特徴が説明できるようになる</p> <p>(3)大学の基本的機能や社会的使命とともに、その存在意義が理解できるようになる</p> <p>(4)大学の機能を支える経営管理や組織、財務などの管理体制の概要が説明できるようになる</p>	<input checked="" type="checkbox"/>
24. ディプロマ・ポリシー (卒業時の到達目標・共通教育の理念・教育方針に関わる項目)		
25. カリキュラムマップ (授業科目の主題・授業科目の到達目標とカリキュラムマップ)		
26. 授業スケジュール ／授業計画並びに授業及び学習の方法	<p><u>1 NPOの社会的役割(Ⅰ—1)</u> NPOの定義や社会的役割、分野や社会的ニーズの観点からみた存在意義</p> <p><u>2 医療法人の経営環境(Ⅰ—2)</u> 医療法人の社会的役割や経営環境、特徴</p> <p><u>3 社会福祉法人の経営環境(Ⅰ—3)</u> 社会福祉法人の社会的役割や経営環境、特徴</p> <p><u>4 NPO法人の経営環境(Ⅰ—4)</u> NPO法人の社会的役割や経営環境、特徴</p> <p><u>5 宗教法人の経営環境(Ⅰ—5)</u> 宗教法人社会的役割や経営環境、特徴</p> <p><u>6 社団法人及び財団法人の経営環境(Ⅰ—6)</u> 財団法人と社団法人の社会的役割や経営環境、特徴</p> <p><u>7 フィランソロピーとソーシャルアントレプレナー(Ⅰ—7)</u> フィランソロピー及びソーシャルアントレプレナーの社会的役割や特徴</p> <p><u>8 大学の基本的機能と経営(Ⅱ—1)</u> 大学の基本的機能(教育・研究・社会貢献)と、それを支える経営組織</p> <p><u>9 大学におけるIR(Institutional Research)の活用(Ⅱ—2)</u> 大学におけるIRの定義や活用方法、期待される効果</p> <p><u>10 大学の広報戦略(Ⅱ—3)</u> 大学広報の目的や期待される効果、広報戦略の在り方</p> <p><u>11 大学提携による機能強化(Ⅱ—4)</u> 組織提携の目的や効果と事例(大学コンソーシアムなど)</p> <p><u>12 大学の地域連携による社会的役割(Ⅱ—5)</u> 大学が地域連携を行う目的や社会的役割、効果</p> <p><u>13 大学発ベンチャーの展開(Ⅱ—6)</u> 大学発ベンチャーの展開や社会的効果</p> <p><u>14 大学教職員の人材育成(Ⅱ—7)</u></p>	<input checked="" type="checkbox"/>

	<p>大学における教職員の人材育成の目的や能力開発(FD及びSD)の必要性</p> <p>15 大学の財政(Ⅱ—8)</p> <p>会計の基本的役割と大学財政の特徴</p>				
27. 授業時間外学習にかかわる情報	<p>各回の授業の動画を視聴して、「小レポート(または、理解できたこと)」を提出してください。なお、授業に対する質問があれば受け付けます。</p>		<input checked="" type="checkbox"/>		
28. 成績評価の方法と基準	<p>評価基準: 下記の小レポート及びレポート試験が達成目標に達しているか総合的に判断します。</p> <p>評価方法: 授業に対する積極性や小レポート(50点)、レポート試験(50点)とします。詳細は別途、示します。単位取得条件として、合計60点以上を取得する必要があります。なお、モジュール内の学修が出席に相当します。</p>		<input checked="" type="checkbox"/>		
29. 再試験の有無	自大学学生向け	なし	<input checked="" type="checkbox"/>		
	連携大学学生向け	なし			
30. 受講の条件／先行科目／受講人数制限	<p>受講人数制限: あり</p> <p>香川大学25名 徳島大学25名 鳴門教育大学5名 高知大学※20名 愛媛大学25名</p> <p>※高知大学の学生は、共通教育で開講している「大学政策論入門」(2単位)及び「非営利法人経営論入門」(2単位)の両科目を単位取得済みであることが望ましい。</p>		<input checked="" type="checkbox"/>		
31. 受講のルール履修上の注意・担当教員からのメッセージ／履修希望学生に求めるもの	<p>(1) 担当教員からのメッセージ</p> <p>NPO(非営利組織)が関わる分野は、教育、保健医療、福祉、社会的支援などの公益性を含む事業であり多岐にわたります。NPOが社会に果たしてきた役割は大きく、社会を支える機能を担っています。履修生の皆さんもNPOに関わる機会があると思います。また近年、大学に対する社会的要望や期待が高まってきました。大学には、我が国の科学技術の発展や社会的変革への原動力として、教育研究を通じて展開していく使命があります。学生の皆さんが学ぶ大学の基本的な機能(教育研究、社会貢献)や社会的な役割を学ぶことは大切なことです。</p> <p>このようにNPO及び大学は、多様な活動を行っていますが、ご存じない事柄があるかもしれません。その意味において、この授業を通じて、NPO及び大学に関わる新たな知見や学びを得ることができると思います。NPO及び大学の活動に関心を持つ学生で、その社会的役割や経営環境について学びたい方の受講を望みます。なお、当授業は専門知識を持たない方にも分かりやすく説明します。</p> <p>(2) 履修希望学生に求めるもの</p> <p>本授業では、NPO(非営利組織)の社会的役割や具体的な活動内容について学ぶため、NPOに関わる基礎的な知識や近年の動向について、教科書などの資料を予習して把握しておくことが望ましいです。また、大学の基本的な機能(教育研究、社会貢献)や大学政策について学ぶため、大学に関わる基礎的な知識や近年の動向について、教科書などの資料を予習して把握しておくことが望ましいです。</p> <p>(3) その他</p> <p>「10 大学の広報戦略(Ⅱ—3)」及び「14 大学職員の人材育成(Ⅱ—7)」についてはゲストスピーカーが担当します(「40. その他／備考」を参照)。</p>		<input checked="" type="checkbox"/>		
32. 教科書(購入の必要のある図書)				<input checked="" type="checkbox"/>	
		書名	『非営利法人経営論』		
	教科書1	ISBN	978-4-86429-285-6		著者名
	出版社	大学教育出版	出版年	2014年	

	金額	本体1,800円 + 税	備考	大学生協や(株)大学教育出版、各種オンラインショップのサイトで購入可		
	教科書2	書名	『大学の戦略的経営手法』			
		ISBN	978-4-86429-358-7	著者名		岩崎保道編
		出版社	大学教育出版	出版年		2016年
		金額	本体1,800円 + 税	備考		大学生協や(株)大学教育出版、各種オンラインショップのサイトで購入可
33. 教科書・参考書に関する補足情報	参考書1	書名				<input checked="" type="checkbox"/>
		ISBN		著者名		
		出版社		出版年		
		金額		備考		
	参考書2	書名				
		ISBN		著者名		
		出版社		出版年		
		金額		備考		
	参考書3	書名				
		ISBN		著者名		
		出版社		出版年		
		金額		備考		
	34. Webテキスト (URL・説明)	大学連携e-Learning教育支援センター四国(知プラ)ウェブサイト https://chipla-e.ucel.kagawa-u.ac.jp/				
35. パソコン必要度	必要	36. 資格等／本科目受講が必要となる資格等 ／資格取得該当科目	特になし		<input checked="" type="checkbox"/>	
37. 教員相互参観授業公開日程					<input type="checkbox"/>	
38. オフィスアワー	自大学 学生向け	火曜日、水曜日、木曜日の1限目 希望する場合、あらかじめメールアドレスにより予約してください(高知大学 教育学部1号館5階 岩崎研究室)			<input checked="" type="checkbox"/>	
	連携大学 学生向け	特になし			<input checked="" type="checkbox"/>	
39. 連絡先／学生相談場所／学生開示用メール	自大学 学生向け	電子メール(yiwasaki@kochi-u.ac.jp)にて連絡してください			<input checked="" type="checkbox"/>	
	連携大学 学生向け	同上			<input checked="" type="checkbox"/>	

40. 教員の実務経験について	<p>「実務経験のある教員による授業科目」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・実務家教員 岩崎保道 / 高知大学IR・評価機構の教員として、IR (Institutional Research) 業務を担っている。この業務で得た知識や経験をもとに、IRに関わる授業(9 大学におけるIR (Institutional Research)の活用(Ⅱ—2))を行う。また、学校法人事務局の経理課職員を務めていた。この業務で得た知識や経験をもとに、財務に関わる授業(15 大学の財政(Ⅱ—8))を行う。 ・実務家教員 谷ノ内識 / 学校法人追手門学院の広報課長として幼稚園から大学・大学院までの広報業務の責任者を務めており、過去にはNHK記者として広報と関係する報道の経験もある。この業務で得た知識や実践経験をもとに、広報に関わる授業(10 大学の広報戦略(Ⅱ—3))を行う。 ・実務家教員 中元崇 / 大学コンソーシアム京都の勤務経験として、FD/SDを担当する事業部に所属していた。この経験を踏まえてFD/SDIに関する授業(14 大学職員の人材育成(Ⅱ—7))を行う。 	<input checked="" type="checkbox"/>
41. バリアフリー対応	授業動画は全て字幕付き	<input checked="" type="checkbox"/>
42. その他/備考	特になし	<input checked="" type="checkbox"/>

2023年2月改訂

シラバス基本情報

1. 開講年度	2024		2. 開講学期	第1学期	
3. 開講学部・学科等 ／区分等	共通教育		4. 授業形態／授業種 別	eラーニング	
5. 授業科目区分／科 目分野／科目区分／ 区分等	2023年度以前 教養科目 キャリア形成支援分野 2024年度以降 キャリア形成		6. DPコード／分野コー ド／科目ナンバリング		
7. 科目名／科目英文 名／英文併記	(日本語名) アクティブラーニング入門 (英文名) Learning Methods of Active Learners				
8. 副題(日本語・英 語)	(日本語名) 体験する教室 (英文名) Experience in Classroom				
9. 担当教員名(教員 ローマ字表記)	(日本語) 高畑 貴志 (ローマ字) TAKABATAKE Takashi				
10. 時間割コード／申 請コード／授業コード			11. 昼夜		
12. 単位数	1		13. 選必区分／単位区 分	なし	
14. 対象学生	全学部全学科		15. 対象年次／区分等 ／標準履修年次	1年生	
16. 曜日・時限	なし		17. 講義室		
18. 履修推奨科目	自大学 学生向け	なし	19. 関連科目(関連科 目コード番号)	自大学 学生向け	なし
	連携大学 学生向け	なし		連携大 学 学生向け	なし
20. 授業のキーワード ／英文キーワード(3 つ以上5つ以下)	参加型授業, アイスブレイキング, 反転授業 Active Learning, Ice breaking, Flipped Classroom				
21. 授業概要	新しい小・中学校(2019年度告示), および, 高等学校(2020年度告示)の学習指導要領には, 知識理 解の質を高め資質・能力を育むため, 主体的・対話的で深い学びというキーワードでアクティブラー ニングが取られました。この授業では, いくつかのアクティブラーニングのパターンを教材化したものです。 この教材を受講者がアクティブ(能動的)に学んでアクティブラーナーとなり, 将来教員になって, あるい は就職した後教育係となって, 子供の親となって, アクティブラーニングの実践ができるようになることを 目指しています。				<input checked="" type="checkbox"/>
22. 授業の目的及び 主旨／授業科目の主 題	・学習者が主体的に学ぶとはどういうことかわかる。 ・学習者が主体的に学ぶためにどのようなサポートが必要かわかる。				<input checked="" type="checkbox"/>
23. 授業の到達目標 ／学修課題	アクティブラーニングを実施する上で, どのような準備(環境整備)が必要か説明できる。 失敗しないグループワークのために, 必要なことが3つ以上言える。 学習者の参加を促すために, 注意を払わなければならないこと(教員の視点)が3つ言える。 試験紙法の手順が説明できる。 PBLが効果的な授業と, 試験紙法が効果的な授業のタイプ分けができる。				<input checked="" type="checkbox"/>

24. ディプロマ・ポリシー (卒業時の到達目標・共通教育の理念・教育方針に関わる項目)		
25. カリキュラムマップ (授業科目の主題・授業科目の到達目標とカリキュラムマップ)		
26. 授業スケジュール ／授業計画並びに授業及び学習の方法	<p>第1回 初回の授業ですべきこと</p> <p>第2回 授業の最初にすべきこと</p> <p>第3回 学生からのフィードバックを得る方法</p> <p>第4回 失敗しないグループワークのために</p> <p>第5回 勉強の仕方を教える</p> <p>第6回 反転授業をやってみよう</p> <p>第7回 プレゼンテーションのコツ</p> <p>第8回 ICTを使う</p> <p>期末試験</p> <p>補助教材 オンライン授業での工夫</p> <p>【授業及び学習の方法】</p> <p>1～5の手順で学修を進めてください。1～4は毎回の授業に用意されています。</p> <p>1.講義テキストを読み内容を理解する。</p> <p>2.講義テキストの内容を、自分なりの言葉でノートにまとめる。</p> <p>テキストを内容のまとまりごとに分け、それぞれについて、大事なポイントをかきだした後、80～200文字程度に要約する。</p> <p>3.レポートの作成</p> <p>ノートの要約文を列挙してmoodleに提出する。</p> <p>レポートは提出後にチェックされます。再提出を求められる場合があります。</p> <p>4.章末テスト</p> <p>2回まで受験可能です。</p> <p>5.期末試験</p> <p>1回だけ受験が可能です。</p>	<input checked="" type="checkbox"/>
27. 授業時間外学習にかかわる情報	<p>非同期型(オンデマンド)のオンライン授業のため、授業時間内・授業時間外という枠はありません。</p> <p>eラーニングシステム moodle上のコンテンツを確認した上で、提示された活動に取り組んでもらいます。</p>	<input checked="" type="checkbox"/>
28. 成績評価の方法と基準	<ul style="list-style-type: none"> ・毎回のレポート 40% <li style="padding-left: 20px;">レポートは全て提出すること。 ・毎回のレポート追加点 10% <li style="padding-left: 20px;">Goodの評価を受けている場合の加点 	<input checked="" type="checkbox"/>

	<p>・章末テスト 30%</p> <p>十分な予習時間をとり、間違えずに短時間で全問正解すること。誤答すると減点されます。2回受験が可能で、2回受験した場合は平均点が成績として加算されます。</p> <p>・期末試験 20%</p> <p>・単位修得のためには、全ての課題を終えた上で合計60点以上の点数を取得する必要があります。</p>					
29. 再試験の有無	自大学学生向け	なし			<input checked="" type="checkbox"/>	
	連携大学学生向け	なし				
30. 受講の条件／先行科目／受講人数制限	<p>受講人数制限:あり</p> <p>香川大学15名・徳島大学15名・鳴門教育大学15名・高知大学15名・愛媛大学15名</p>				<input checked="" type="checkbox"/>	
31. 受講のルール履修上の注意・担当教員からのメッセージ／履修希望学生に求めるもの	<p>各章の章末テストに、標準的なスケジュール(解答期限)を設定しています。テストを受ける前にレポートを提出するため、レポート締切も同時期と考えて下さい。毎回のレポートを全て提出し、章末テストや期末試験を受験すること。</p> <p>* 締切に遅れても、必ず毎回のレポートを提出し、章末テストを受験してください。ただし、期末試験受験期限以降の評価は行いません。</p> <p>* 章末テストは2回受験可能で、2回受験した場合は平均点を成績とします。1回で高得点を得た場合、2回目を受験する必要はありません。</p> <p>* 標準スケジュールで示した各回の締切後にレポートをチェックし、コメントを返します。コメントを確認してください。レポートは、サイエンスコミュニケーションの練習のために書くものです。そのための評価基準を設定していますので、「受講の仕方」をよく読んで下さい。長い長いレポートを出す人がいますが、その場合は再提出にします。</p>				<input checked="" type="checkbox"/>	
32. 教科書(購入の必要のある図書)	教科書1	書名			<input type="checkbox"/>	
ISBN		著者名				
出版社		出版年				
金額		備考				
33. 教科書・参考書に関する補足情報	参考書1	書名			<input type="checkbox"/>	
		ISBN	著者名			
		出版社	出版年			
		金額	備考			
	参考書2	書名				
		ISBN	著者名			
		出版社	出版年			
		金額	備考			
	参考書3	書名				
		ISBN	著者名			
		出版社	出版年			
		金額	備考			

34. Webテキスト (URL・説明)	大学連携e-Learning教育支援センター四国(知プラ)ウェブサイト https://chipla-e.ucel.kagawa-u.ac.jp/		<input checked="" type="checkbox"/>
35. パソコン必要度	必要	36. 資格等／本科目受 講が必要となる資格等 ／資格取得該当科目 なし	<input checked="" type="checkbox"/>
37. 教員相互参観授 業公開日程			<input type="checkbox"/>
38. オフィスアワー	自大学 学生向け	なし	<input checked="" type="checkbox"/>
	連携大学 学生向け	なし	<input checked="" type="checkbox"/>
39. 連絡先／学生相 談場所／学生開示用 メール	自大学 学生向け	moodle内のコミュニケーションツール(フォーラム)を利用すること。	<input checked="" type="checkbox"/>
	連携大学 学生向け	moodle内のコミュニケーションツール(フォーラム)を利用すること。	<input checked="" type="checkbox"/>
40. 教員の実務経験 について	なし		<input checked="" type="checkbox"/>
41. バリアフリー対応	講義テキストはPDFとなっています。参考動画が1本ありますが、字幕が加えられています。		<input checked="" type="checkbox"/>
42. その他／備考	moodleの使い方についての問い合わせ先: elmanabi@kochi-u.ac.jp		<input checked="" type="checkbox"/>

2023年2月改訂

シラバス基本情報

1. 開講年度	2024		2. 開講学期	第2学期	
3. 開講学部・学科等 ／区分等	共通教育		4. 授業形態／授業種別	eラーニング	
5. 授業科目区分／科目分野 ／科目区分／区分等	2023年度以前 教養科目自然分野 2024年度以降 自然科学系領域		6. DPコード／分野コード ／科目ナンバリング		
7. 科目名／科目英文名 ／英文併記	(日本語名) インタフェースデザイン概論 (英文名) Introduction to Interface Design				
8. 副題(日本語・英語)	(日本語名) なし (英文名) なし				
9. 担当教員名(教員ローマ字表記)	(日本語) 三好 康夫 (ローマ字) MIYOSHI Yasuo				
10. 時間割コード／申請コード ／授業コード			11. 昼夜		
12. 単位数	1		13. 選必区分／単位区分	なし	
14. 対象学生	1年次以降／全学部		15. 対象年次／区分等 ／標準履修年次	1年次以降／全学部	
16. 曜日・時限	なし		17. 講義室		
18. 履修推奨科目	自大学 学生向け	特になし	19. 関連科目(関連科目 コード番号)	自大学 学生向け	特になし
	連携大学 学生向け	特になし		連携大学 学生向け	特になし
20. 授業のキーワード ／英文キーワード (3 つ以上5つ以下)	ヒューマンインタフェース, 入力デバイス, インタラクションデザイン, 情報デザイン Human Interface, Input Devices, Interaction Design, Information Design				
21. 授業概要	本授業では、ヒューマンインタフェースの概念や人間の特性、情報システムの使いやすさ等について概説し、主にソフトウェアのユーザインタフェース設計手法について言及する。情報システム等の使いやすさの論理的な評価方法や、使いやすさを意識した GUI 設計の考え方を学ぶ。				☑
22. 授業の目的及び 主旨／授業科目の主題	・ヒューマンインタフェースの概念を学び、情報システムの使いやすさについて考える。 ・Web デザインやスマートフォン・タブレットアプリ開発の手法や、情報デザインとインタラクションデザインの考え方を学ぶ。				☑
23. 授業の到達目標 ／学修課題	(1) 情報システム等の使いやすさを論理的に評価することができる (2) 使いやすさを意識した GUI 設計の考え方を説明できる				☑
24. ディプロマ・ポリシー (卒業時の到達目標・共通教育の理念・教育方針に関わる項目)					

25. カリキュラムマップ(授業科目の主題・授業科目の到達目標とカリキュラムマップ)						
26. 授業スケジュール／授業計画並びに授業及び学習の方法	<p>【授業計画】</p> <p>※ 授業内容は変更になる可能性があります。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. ガイダンス, ヒューマンインタフェースとは 2. Webやモバイル端末におけるヒューマンインタフェース 3. コミュニケーション支援, インタラクションのデザイン 4. 情報のデザイン, サイト設計, ユーザビリティ評価 5. 人間の情報処理モデル, ヒューマンエラー, 人間サイドからの設計 6. 情報入力系, 情報出力系, インタラクションの拡張 7. ユーザのアシスト, ユニバーサルデザイン, 今後のヒューマンインタフェース 8. ペーパープロトタイピング, 期末レポート 				☑	
27. 授業時間外学習にかかわる情報	e-Learning コンテンツの視聴確認も兼ねて, 各回において知識定着度を判定するための小テストを課しています。しっかり復習してから小テストを受験してください。				☑	
28. 成績評価の方法と基準	各回的小テストを計 35 点満点, 各回のレポートを計 35 点満点, 期末レポートを 30 点満点で評価し, 合計 60 点以上を合格とする。ただし, 各回(1~7 回)の小テストとレポートを全て提出しなければ, 期末レポートは提出できないので注意すること。				☑	
29. 再試験の有無	自大学学生向け	なし			☑	
	連携大学学生向け	なし				
30. 受講の条件／先行科目／受講人数制限	<p>受講人数制限:あり</p> <p>香川大学 15 名・徳島大学 15 名・鳴門教育大学 15 名・高知大学 15 名・愛媛大学 15 名</p>				☑	
31. 受講のルール履修上の注意・担当教員からのメッセージ／履修希望学生に求めるもの	<p>第 1 回目から第 8 回目までの受講はすべて, インターネットに接続できるパソコンから Moodle とよばれる LMS(Learning Management System)にアクセスして e-Learning コンテンツを視聴する形態となる。動画コンテンツを視聴する際は, 話のポイントをノートに書き取るなど, 主体的な学習態度を心がけること。その他受講方法の詳細については, 第 1 回(ガイダンス)を参照されたい。</p>				☑	
32. 教科書(購入の必要のある図書)					☑	
	教科書 1	書名	イラストで学ぶヒューマンインタフェース 改訂第2版			
		I S B N	978-4-06-516143-2	著者名		北原義典
		出版社	講談社	出版年		2019
金額		2,600 円+税	備考			

33. 教科書・参考書に関する補足情報	参考書 1	書名				□
		ISBN		著者名		
		出版社		出版年		
		金額		備考		
	参考書 2	書名				
		ISBN		著者名		
		出版社		出版年		
		金額		備考		
	参考書 3	書名				
		ISBN		著者名		
		出版社		出版年		
		金額		備考		
34. Web テキスト (URL・説明)	大学連携 e-Learning 教育支援センター四国(知プラ)ウェブサイト https://chipla-e.ucel.kagawa-u.ac.jp/				☑	
35. パソコン必要度	必要	36. 資格等／本科目受講が必要となる資格等 ／資格取得該当科目	なし		☑	
37. 教員相互参観授業公開日程					□	
38. オフィスアワー	自大学 学生向け	電子メール(miyoshi+el@is.kochi-u.ac.jp)を利用してください			☑	
	連携大学 学生向け	電子メール(miyoshi+el@is.kochi-u.ac.jp)を利用してください			☑	
39. 連絡先／学生相談場所／学生開示用メール	自大学 学生向け	miyoshi+el@is.kochi-u.ac.jp			☑	
	連携大学 学生向け	miyoshi+el@is.kochi-u.ac.jp			☑	
40. 教員の実務経験について	無し				☑	
41. バリアフリー対応	授業動画は全て字幕付き				☑	
42. その他／備考	高知大学理工学部情報科学科の学生と、高知大学理学部応用理学科情報科学コースの学生は、学部の専門科目に「ヒューマン・コンピュータ・インタラクション(2年次以上対象)」という科目がありますので、この科目は履修せずにヒューマン・コンピュータ・インタラクションを履修するようにしてください。				☑	

シラバス基本情報

1. 開講年度	2024		2. 開講学期	第2学期	
3. 開講学部・学科等 ／区分等	共通教育		4. 授業形態／授業種 別	eラーニング	
5. 授業科目区分／科 目分野／科目区分／ 区分等	2023年度以前 教養科目 キャリア形成支援分野 2024年度以降 キャリア形成		6. DPコード／分野コー ド／科目ナンバリング		
7. 科目名／科目英文 名／英文併記	(日本語名) キャリアで活かすITリテラシー (英文名) IT literacy for your Career				
8. 副題(日本語・英 語)	(日本語名) ITパスポートを学ぶ (英文名) Lets' Study IT Passport				
9. 担当教員名(教員 ローマ字表記)	(日本語) 高畑 貴志 (ローマ字) TAKABATAKE Takashi				
10. 時間割コード／申 請コード／授業コード			11. 昼夜		
12. 単位数	1		13. 選必区分／単位区 分	なし	
14. 対象学生	全学部全学科		15. 対象年次／区分等 ／標準履修年次	1年生	
16. 曜日・時限	なし		17. 講義室		
18. 履修推奨科目	自大学 学生向け	なし	19. 関連科目(関連科 目コード番号)	自大学 学生向け	なし
	連携大学 学生向け	なし		連携大 学 学生向け	なし
20. 授業のキーワード ／英文キーワード (3 つ以上5つ以下)	ITパスポート, ストラテジ, マネジメント, テクノロジ IT Passport, strategy, management, technology				
21. 授業概要	<p>ITパスポートの教科書に沿って, 以下の要領でITパスポートで求められる知識を順に身に付けていきます。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・まず教科書で, ITパスポートに必要とされる知識を学習してください。 ・重要なポイントを説明文に起こしてみましよう。説明文のうち, 具体的で重要な事柄を5~10個選んでレポートとして提出してもらいます。 ・その上で, オンラインで公開されているITパスポートの過去問に取り組むことで, 学習した内容を確認してください。 ・2回の間中間試験をコース上で受験してください。 ・期末試験をコース上で受験してください。 				<input checked="" type="checkbox"/>
22. 授業の目的及び 主旨／授業科目の主 題	<p>社会の活動を理解する。 社会でのITの活用を理解する。</p>				<input checked="" type="checkbox"/>
23. 授業の到達目標 ／学修課題	<p>マネジメント系の範囲から重要な事項を10個挙げ, 簡単な説明が加えられる。 ストラテジ系の範囲から重要な事項を10個挙げ, 簡単な説明が加えられる。 テクノロジー系の範囲から重要な事項を15個挙げ, 簡単な説明が加えられる。</p>				<input checked="" type="checkbox"/>

24. ディプロマ・ポリシー(卒業時の到達目標・共通教育の理念・教育方針に関わる項目)	
25. カリキュラムマップ(授業科目の主題・授業科目の到達目標とカリキュラムマップ)	
26. 授業スケジュール／授業計画並びに授業及び学習の方法	<p>【授業計画】</p> <p>第1回 学修の進め方 ストラテジ系 Part1 Chapter 8 企業の業務活動 Chapter 9 企業の戦略</p> <p>第2回 ストラテジ系 Part2 Chapter 10 業務とITビジネス Chapter 11 法令やルールの遵守</p> <p>第3回 マネジメント系Part1 Chapter 6 システムの開発</p> <p>第4回 マネジメント系Part2 Chapter 7 システムの運用管理</p> <p>第5回 基礎理論・コンピュータシステム(テクノロジー系) Chapter 1 コンピュータシステム Chapter 2 情報処理の基礎知識</p> <p>第6回 技術要素1(テクノロジー系) Chapter 3 ITを支える各種の技術</p> <p>第7回 技術要素2(テクノロジー系) Chapter 4 ネットワーク技術</p> <p>第8回 技術要素3(テクノロジー系) Chapter 5 セキュリティ技術</p> <p>第9回 期末試験</p> <p>【授業及び学習の方法】</p> <p>1.事前学習 レポート作成に先立って、テキストの内容を学習してください。</p> <p>2.レポート作成 学習した内容から、以下のようなレポートを作成してください。</p> <p>【レポートの書き方】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・テーマごとに説明文をノートにまとめましょう。ノートに書いた中の指定した範囲から、5～10個を選んでレポートとして提出してもらいます。 ・ノートにまとめる内容は、テキストからの書き写しではなく、自分なりの言葉でまとめること。冒頭の説明は体言止めや箇条書きでなく、通常の文とし表現すること。内容が不十分と教員が判断した場合、内容に間違いがある場合、文法的な間違いがある場合は再提出を求めることがあります。 ・提出されたレポートにはコメントを返すので、コメントを見て参考とすること。問題ない場合には「OK」、よく書かれている場合には「Good」とだけ返します。再提出が必要な場合には「再提出」という言葉に



	<p>その理由を付けて返します。</p> <p>3.確認テスト</p> <p>レポート提出後に、各回の内容に対応した確認テスト(IPAが公開している過去問)を受験してもらいます。テストの成績が分かる資料の提出を求めます。</p>		
27. 授業時間外学習にかかわる情報	<p>この授業は、非同期型のオンライン授業です。授業構成のうち2,3が、授業時間外学習に相当します。</p> <p>1.事前学習</p> <p>2.レポート作成</p> <p>3.確認テスト</p>	<input checked="" type="checkbox"/>	
28. 成績評価の方法と基準	<ul style="list-style-type: none"> ・毎回のレポート 20% レポートは全て提出すること。 ・毎回のレポート追加点 10% レポートにGoodの評価を受けている場合の加点 ・確認問題 30% 各回の内容に対応した確認テスト(IPAが公開している過去問)を受験すること。6割以上の正解を各回の合格条件とします。 ・中間試験 10% ITパスポート試験と同様の形式の問題を、Moodle上で出題します。制限時間内に解いてください。 ・期末試験 30% ITパスポート試験と同様の形式の問題を、Moodle上で出題します。制限時間内に解いてください。 ・単位修得のためには、すべての課題を終えた上、合計60点の点数を取得する必要があります。 	<input checked="" type="checkbox"/>	
29. 再試験の有無	自大学学生向け	なし	<input checked="" type="checkbox"/>
	連携大学学生向け	なし	
30. 受講の条件／先行科目／受講人数制限	<p>受講人数制限:あり</p> <p>香川大学15名・徳島大学15名・鳴門教育大学15名・高知大学15名・愛媛大学15名</p>		<input checked="" type="checkbox"/>
31. 受講のルール履修上の注意・担当教員からのメッセージ／履修希望学生に求めるもの	<p>この授業では、以下の1～3を、受講生の皆さんに求めます。</p> <p>1.パソコン環境</p> <p>IPAが公開している、ITパスポートのCBT疑似体験ソフトウェア(過去問)を利用できるパソコン環境が必要です。Windows 10 または Windows 11 を搭載したパソコンで利用できます。 (URL) https://www3.jitec.ipa.go.jp/JitesCbt/html/guidance/trial_examapp.html (2022年12月現在)</p> <p>2.自律力</p> <p>授業時間という強制的な仕組みがないため、主体的に取り組む姿勢や、自分で計画を立てて持続できる自律力が重要になります。</p> <p>3.やり抜く力GRIT</p> <p>ITパスポートで学ぶべき知識は多岐に渡ります。1回で全てを理解するのは難しいと思いますが、挫けずに何度も過去問を解くことで、理解が深まっていきます。</p>		<input checked="" type="checkbox"/>

32. 教科書(購入の必要のある図書)	教科書1	書名	令和06年 ITパスポートの 新よくわかる教科書			<input checked="" type="checkbox"/>
		ISBN	978-4-297-13749-6	著者名	原山 麻美子	
		出版社	技術評論社	出版年	2023	
		金額	1,280円(税抜き)	備考	令和07年版が発売されていれば、そちらを用いてもよい。	
33. 教科書・参考書に関する補足情報	参考書1	書名				<input type="checkbox"/>
		ISBN		著者名		
		出版社		出版年		
		金額		備考		
	参考書2	書名				
		ISBN		著者名		
		出版社		出版年		
		金額		備考		
	参考書3	書名				
		ISBN		著者名		
		出版社		出版年		
		金額		備考		
34. Webテキスト(URL・説明)	大学連携e-Learning教育支援センター四国(知プラ)ウェブサイト https://chipla-e.ucel.kagawa-u.ac.jp/				<input checked="" type="checkbox"/>	
35. パソコン必要度	必要	36. 資格等/本科目受講が必要となる資格等/資格取得該当科目	なし		<input checked="" type="checkbox"/>	
37. 教員相互参観授業公開日程					<input type="checkbox"/>	
38. オフィスアワー	自大学 学生向け	なし			<input checked="" type="checkbox"/>	
	連携大学 学生向け	なし			<input checked="" type="checkbox"/>	
39. 連絡先/学生相談場所/学生開示用メール	自大学 学生向け	eラーニングシステム Moodle 上の専用掲示板(フォーラム)を使います。			<input checked="" type="checkbox"/>	
	連携大学 学生向け	eラーニングシステム Moodle 上の専用掲示板(フォーラム)を使います。			<input checked="" type="checkbox"/>	
40. 教員の実務経験について	なし				<input checked="" type="checkbox"/>	
41. バリアフリー対応	コンテンツは全てテキスト形式です。				<input checked="" type="checkbox"/>	
42. その他/備考	moodleの使い方についての問い合わせ先: elmanabi@kochi-u.ac.jp				<input checked="" type="checkbox"/>	

シラバス基本情報

1. 開講年度	2024		2. 開講学期	第1学期	
3. 開講学部・学科等 ／区分等	共通教育		4. 授業形態／授業種 別	eラーニング	
5. 授業科目区分／科 目分野／科目区分／ 区分等	2023年度以前 教養科目自然分野 2024年度以降 自然科学系領域		6. DPコード／分野コー ド／科目ナンバリング		
7. 科目名／科目英文 名／英文併記	(日本語名)サイエンスリテラシーの化学 (英文名) Chemistry of Science Literacy				
8. 副題(日本語・英 語)	(日本語名)すべての大学一年生のための化学入門 (英文名) Introduction of Chemistry for All University Students				
9. 担当教員名(教員 ローマ字表記)	(日本語) 立川 明 (ローマ字) Tatsukawa Akira				
10. 時間割コード／申 請コード／授業コード			11. 昼夜		
12. 単位数	2		13. 選必区分／単位区 分	選択	
14. 対象学生	全学部		15. 対象年次／区分等 ／標準履修年次	主に1年生	
16. 曜日・時限	オンデマンド		17. 講義室		
18. 履修推奨科目	自大学 学生向け	なし	19. 関連科目(関連科 目コード番号)	自大学 学生向け	なし
	連携大学 学生向け	なし		連携大学 学生向け	なし
20. 授業のキーワード ／英文キーワード(3つ 以上5つ以下)	化学 Chemistry, 無機化学 Inorganic Chemistry, 有機化学 Organic Chemistry				
21. 授業概要	<p>教科書に沿って、酸塩基、衣服、洗濯、プラスチック、料理、コロイド、医薬品、石油、セラミックス、電池、家電、三態、環境の順で進めます。</p> <p>まず自分で教科書をよく読んでください。その上でイメージマップと説明文をノートに書いてみましょう。各章ごとにノートの見開きページの画像をデジカメ、スマホなどで撮り、その画像を提出すること。自信作を提出してください。ノートの説明文の書き方は自由です。提出するレポートには、評価基準があります。評価基準を満たすよう、説明文を完成させます。一つの事柄を一文で具体的かつ簡潔に表現してください。異なるパラグラフから1文ずつ特に重要なものを選んで5つ(以上)をレポートとして提出します。</p> <p>レポートを提出したら、章末テストを受験してください。4章には、補助教材がありますので、章末テスト前によく読んで、レポートを作成すること。このレポートの評価基準はレポートと同様です。章末テストは2回受験できますが、その場合平均点が成績となります。1回で全問正解するよう、十分準備学修をしましょう。1回で全問正解した場合、2回受験する必要はありません。</p> <p>各章に追加資料があります。こちらにも課題がありますので、必ず提出してください。</p> <p>質問がある場合はフォーラムに書き込んでください。</p> <p>各章ごとに、提出期限があります。各章の課題は期限前に提出してください。レポートの評価基準を公開しています。評価基準に満たない場合は、再提出とコメントを返しますので、1週間以内に再提出する</p>				



	<p>こと。評価基準を満たした場合は、10点満点で評価点をコメント欄に記します。10点でなかった場合自主的に再提出すれば、再評価します。</p> <p>合理的配慮が必要と認められた者で、提出期限に遅れて課題提出や受験を希望する場合は、フォーラム等でその旨知らせてください。個別に対応します。</p> <p>各回の閲覧期間を設定しています。必ず締め切り前に学修を終えてください。レポートの再提出は1週間以内に！ チャンスは1回です。</p>	
<p>22. 授業の目的及び主旨／授業科目の主題</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・この授業に主体的に取り組むことにより、あなたは身の回りに存在する化学物質や化学反応の知識を得ることができる。 ・化学の知識を得ることにより、持続可能で健康的な生活を送るために必要な正しい選択ができるようになる。 	<input checked="" type="checkbox"/>
<p>23. 授業の到達目標／学修課題</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・みのまわりのものを化学物質としてとらえることができる ・みのまわりに起こる事柄を化学変化としてとらえることができる ・教科書で扱われている化学物質の化学式・構造式が正しくかける ・教科書で扱われている化学反応式が正しくかける ・教科書で扱われている事柄をわかりやすく伝えることができる 	<input checked="" type="checkbox"/>
<p>24. ディプロマ・ポリシー（卒業時の到達目標・共通教育の理念・教育方針に関わる項目）</p>		
<p>25. カリキュラムマップ（授業科目の主題・授業科目の到達目標とカリキュラムマップ）</p>		
<p>26. 授業スケジュール／授業計画並びに授業及び学習の方法</p>	<p>第1回 教材の使い方について、第1章「化学って何だ？」</p> <p>第2回 「真水・お酢・石けん水の違って？」</p> <p>第3回 「衣服は第二の皮膚」</p> <p>第4回 「環境にやさしい洗濯を」、補助教材「石けんと洗剤」</p> <p>第5回 「もっとも身近でもっとも不思議な物質」</p> <p>第6回 「生活材料今昔物語」</p> <p>第7回 「お料理は化学実験」</p> <p>第8回 「生活を彩る驚異の粒子」</p> <p>第9回 「化学の力で命を守る」</p> <p>第10回 「身の回りには石油製品がいっぱい！」</p> <p>第11回 「現代生活を支えるすぐれモノたち」</p> <p>第12回 「電気パワーが社会を明るくする」</p> <p>第13回 「身の回りの電気製品をカガクする」</p> <p>第14回 「物質は自在に変わる」</p> <p>第15回 「化学は未来をひらく」</p> <p>第16回 期末試験</p>	<input checked="" type="checkbox"/>

27. 授業時間外学習にかかわる情報	教科書をよく読み、ノートを作成し、レポートを提出し、章末テストに解答してから追加教材に取り組むこと。詳細は初回のコンテンツを見ること。	☑																	
28. 成績評価の方法と基準	<p>毎回のレポート 20% 締め切り後、評価点(10点満点)を返します。合格点(6点)に満たない場合は再提出と返します。1週間以内に再提出してください。</p> <p>ノート画像 10%</p> <p>章末テスト 40%</p> <p>追加課題 10%</p> <p>期末試験 20%</p> <p>テストは解答後、点数が表示されます。章末テストは10点満点、期末テストは20点です。</p> <p>提出課題は、締め切り後評価点を返します。</p> <p>毎回の提出課題の点数を合計し、上記の重みづけをかけて成績とします。</p>	☑																	
29. 再試験の有無	<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 30%;">自大学学生向け</td> <td>なし</td> </tr> <tr> <td>連携大学学生向け</td> <td>なし</td> </tr> </table>	自大学学生向け	なし	連携大学学生向け	なし	☑													
自大学学生向け	なし																		
連携大学学生向け	なし																		
30. 受講の条件／先行科目／受講人数制限	<p>受講人数制限:あり</p> <p>香川大学10名・徳島大学10名・鳴門教育大学10名・高知大学10名・愛媛大学10名</p>	☑																	
31. 受講のルール履修上の注意・担当教員からのメッセージ／履修希望学生に求めるもの	<p>やる気！！ すべてオンデマンドで行います。この授業でセルフマネジメント力を身につけてください。</p> <p>チャレンジ精神！</p> <p>準備学修を前提として授業を進めますので、早めに準備学修をして分かり難いところは事前にフォーラムに投げてください。</p> <p>必ず次の順序で学修を進めること。レポートだけを提出したりしないこと。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1)教科書による準備学修(4章は補助教材あり) 2)ノートの作成, 画像提出 3)レポートの作成, 提出(4章は補助教材のレポートあり) 4)章末テストへの解答 5)追加資料の閲覧 6)追加課題への解答 7)レポートコメントの確認, 再提出を求められた場合は再提出 <p>学期末)期末試験への解答</p>	☑																	
32. 教科書(購入の必要のある図書)	<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td rowspan="4" style="width: 15%; text-align: center;">教科書1</td> <td style="width: 15%;">書名</td> <td colspan="3">「身の回りから見た化学の基礎」</td> </tr> <tr> <td>ISBN</td> <td>9784759812923</td> <td>著者名</td> <td>芝原 寛泰、後藤 景子</td> </tr> <tr> <td>出版社</td> <td>化学同人</td> <td>出版年</td> <td>2009</td> </tr> <tr> <td>金額</td> <td>1800</td> <td>備考</td> <td></td> </tr> </table>	教科書1	書名	「身の回りから見た化学の基礎」			ISBN	9784759812923	著者名	芝原 寛泰、後藤 景子	出版社	化学同人	出版年	2009	金額	1800	備考		☑
教科書1	書名		「身の回りから見た化学の基礎」																
	ISBN		9784759812923	著者名	芝原 寛泰、後藤 景子														
	出版社		化学同人	出版年	2009														
	金額	1800	備考																

33. 教科書・参考書に関する補足情報	参考書1	書名				<input type="checkbox"/>
		ISBN		著者名		
		出版社		出版年		
		金額		備考		
	参考書2	書名				
		ISBN		著者名		
		出版社		出版年		
		金額		備考		
	参考書3	書名				
		ISBN		著者名		
		出版社		出版年		
		金額		備考		
34. Webテキスト (URL・説明)	大学連携e-Learning教育支援センター四国(知プラ)ウェブサイト https://chipla-e.ucel.kagawa-u.ac.jp/				<input checked="" type="checkbox"/>	
35. パソコン必要度	必要	36. 資格等／本科目受講が必要となる資格等／資格取得該当科目	なし		<input checked="" type="checkbox"/>	
37. 教員相互参観授業公開日程					<input type="checkbox"/>	
38. オフィスアワー	自大学 学生向け	moodle内のコミュニケーションツール(フォーラム)にて問い合わせ			<input checked="" type="checkbox"/>	
	連携大学 学生向け	moodle内のコミュニケーションツール(フォーラム)にて問い合わせ			<input checked="" type="checkbox"/>	
39. 連絡先／学生相談場所／学生開示用メール	自大学 学生向け	moodle内のコミュニケーションツール(フォーラム)を利用すること。			<input checked="" type="checkbox"/>	
	連携大学 学生向け	moodle内のコミュニケーションツール(フォーラム)を利用すること。			<input checked="" type="checkbox"/>	
40. 教員の実務経験	なし				<input checked="" type="checkbox"/>	
41. バリアフリー対応	特別な配慮が必要と認定を受けた学生には、個別に対応します。教材と提出物は全てテキストと図表ですので、聾啞者も受講可能です。軽度の視覚障害者も可能だと思いますが、重度な場合は難しいでしょう。テキストの読み上げソフトなどは各自で準備をお願いします。Moodle内のテキストは全てPDFです。読み上げソフトのために他のファイル形式が必要という人は個別に対応します。				<input checked="" type="checkbox"/>	
42. その他／備考					<input checked="" type="checkbox"/>	

シラバス基本情報

1. 開講年度	2024		2. 開講学期	第2学期	
3. 開講学部・学科等 ／区分等	共通教育科目		4. 授業形態／授業種 別	(e-Learning視聴＋自学自習＋小テスト受 験等) × 15回	
5. 授業科目区分／科 目分野／科目区分／ 区分等	2023年度以前 教養科目 キャリア形成支援分野 2024年度以降 キャリア形成		6. DPコード／分野コー ド／科目ナンバリング		
7. 科目名／科目英文 名／英文併記	(日本語名) ピア・サポート理論と実践 (英文名) Peer support theory and practice				
8. 副題(日本語・英 語)	無し 無し				
9. 担当教員名(教員 ローマ字表記)	(日本語) 杉田郁代 (英語) SUGITA Ikuyo				
10. 時間割コード／申 請コード／授業コード			11. 昼夜		
12. 単位数	2		13. 選必修区分／単位区 分	無し	
14. 対象学生	全学部全学科		15. 対象年次／区分等 ／標準履修年次	無し	
16. 曜日・時限	無し		17. 講義室		
18. 履修推奨科目	自大学 学生向け	無し	19. 関連科目(関連科 目コード番号)	自大学 学生向け	無し
	連携大学 学生向け	無し		連携大学 学生向け	無し
20. 授業のキーワード ／英文キーワード (3 つ以上5つ以下)	ピア・サポート理論、人間関係トレーニング、ストレスに関わる基礎理論、アンガーマネジメント Peer Support Theory, Human relation Training, Basic theory about stress, Anger Control				
21. 授業概要	人を支えるピア・サポート理論とその活動を実際に行うためのプロジェクトマネジメントについて学びま す。ピア・サポート理論は、教育心理学や臨床心理学、健康心理学等の知見を複合しています。その基 礎知識を獲得するとともに、ピア・サポート活動に必要なコミュニケーショントレーニングについても授業 の中の体験を通して学びを深めていきます。授業の中では、学生の皆さんの発言や行動が、学ぶ仲間 (ピア)を助ける道具になります。よって、授業への積極的な参加を望みます。最終的には、大学生活に おいて、ピア・サポート活動を実践できるように授業を設計しています。				<input checked="" type="checkbox"/>
22. 授業の目的及び 主旨／授業科目の主 題	人を支える活動(ピア・サポート)に関わる理論的な知識の獲得とそれらの知識を体験的に学び学習を 深めていきます。				<input checked="" type="checkbox"/>
23. 授業の到達目標 ／学修課題	<ul style="list-style-type: none"> ■ 生活の中でできる他者に対するサポートについて考えることができる ■ 他者とのコミュニケーションに関わる基礎知識を身に付け、考えることができる 				<input checked="" type="checkbox"/>
24. ディプロマ・ポリシ ー(卒業時の到達目 標・共通教育の理念・ 教育方針に関わる項 目)					

25. カリキュラムマップ(授業科目の主題・授業科目の到達目標とカリキュラムマップ)			
26. 授業スケジュール／授業計画並びに授業及び学習の方法	<p>* 授業内容は、変更になる可能性があります。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. ガイダンス(授業内容の概要説明を含む) 2. ピア・サポートの基礎知識の獲得 3. 大学教育におけるピア・サポートについて 4. ピア・サポート関連知識、コミュニケーションに関わる基礎知識について 5. コミュニケーションに関わる基礎知識の獲得と体験(1)「聞くことと聴くこと」 6. コミュニケーションに関わる基礎知識の獲得と体験(2)「自己理解と他者理解」 7. コミュニケーションから生じるストレス 8. コミュニケーションに関わる基礎知識の獲得と体験(3)「思い込みについて考える」 9. コミュニケーションに関わる基礎知識の獲得と体験(4)「怒りとストレスについて考える」 10. コミュニケーションに関わる基礎知識の獲得(1)～(4)の統合 11. サポートに関わる基礎知識の獲得「サポートの限界について考える」 12. 自分ができそうなサポート体験について考える 13. 意見共有から学ぶ 14. ティーチングに関わる基礎知識の獲得 15. 日常生活の中のサポートについて考え、学びの実践から振り返る 		☑
27. 授業時間外学習にかかわる情報	授業外学習については、Moodle上に課題を提示しますので、確認をお願いします。		☑
28. 成績評価の方法と基準	授業中に課せられる課題:60点、ミニレポート(1回):20点、個人プレゼンテーション(1回):20点で成績評価し、合計60点以上の点数を習得する必要がある。授業回の学修活動が出席に相当する。		☑
29. 再試験の有無	自大学学生向け	無し	☑
	連携大学学生向け	無し	
30. 受講の条件／先行科目／受講人数制限	<p>受講人数制限:あり</p> <p>香川大学25名 徳島大学25名 鳴門教育大学25名 高知大学30名 愛媛大学25名</p>		☑
31. 受講のルール履修上の注意・担当教員からのメッセージ／履修希望学生に求めるもの	<p>学内外で、子ども達や地域の人と関わる学生、教職や社会福祉関連の仕事を目指している学生に受講を勧めます。いま、小中高等学校の現場においては、児童生徒の間のピア・サポート活動も盛んに行われています。また、大学教育においても導入が進んでいます。その大学教育における活動についても授業で取り上げていきます。</p> <p>人に関わるということは、コミュニケーションの基礎知識だけでなく、自分自身のことを理解しておくことと人をサポートするための知識が必要になります。誰かの役に立ちたい！何か新しいことを、人を巻き込んで始めたいという人は、ぜひ受講を勧めます。</p>		☑

32. 教科書(購入の必要のある図書)	<table border="1"> <tr> <td rowspan="4">教科書1</td> <td>書名</td> <td colspan="3"></td> </tr> <tr> <td>ISBN</td> <td></td> <td>著者名</td> <td></td> </tr> <tr> <td>出版社</td> <td></td> <td>出版年</td> <td></td> </tr> <tr> <td>金額</td> <td></td> <td>備考</td> <td></td> </tr> </table>			教科書1	書名				ISBN		著者名		出版社		出版年		金額		備考		□																																		
教科書1	書名																																																						
	ISBN		著者名																																																				
	出版社		出版年																																																				
	金額		備考																																																				
33. 教科書・参考書に関する補足情報	<table border="1"> <tr> <td rowspan="4">参考書1</td> <td>書名</td> <td colspan="3"></td> </tr> <tr> <td>ISBN</td> <td></td> <td>著者名</td> <td></td> </tr> <tr> <td>出版社</td> <td></td> <td>出版年</td> <td></td> </tr> <tr> <td>金額</td> <td></td> <td>備考</td> <td></td> </tr> <tr> <td rowspan="4">参考書2</td> <td>書名</td> <td colspan="3"></td> </tr> <tr> <td>ISBN</td> <td></td> <td>著者名</td> <td></td> </tr> <tr> <td>出版社</td> <td></td> <td>出版年</td> <td></td> </tr> <tr> <td>金額</td> <td></td> <td>備考</td> <td></td> </tr> <tr> <td rowspan="4">参考書3</td> <td>書名</td> <td colspan="3"></td> </tr> <tr> <td>ISBN</td> <td></td> <td>著者名</td> <td></td> </tr> <tr> <td>出版社</td> <td></td> <td>出版年</td> <td></td> </tr> <tr> <td>金額</td> <td></td> <td>備考</td> <td></td> </tr> </table>			参考書1	書名				ISBN		著者名		出版社		出版年		金額		備考		参考書2	書名				ISBN		著者名		出版社		出版年		金額		備考		参考書3	書名				ISBN		著者名		出版社		出版年		金額		備考		□
参考書1	書名																																																						
	ISBN		著者名																																																				
	出版社		出版年																																																				
	金額		備考																																																				
参考書2	書名																																																						
	ISBN		著者名																																																				
	出版社		出版年																																																				
	金額		備考																																																				
参考書3	書名																																																						
	ISBN		著者名																																																				
	出版社		出版年																																																				
	金額		備考																																																				
34. Webテキスト(URL・説明)	大学連携e-Learning教育支援センター四国(知プラ)ウェブサイト https://chipla-e.ucel.kagawa-u.ac.jp/			☑																																																			
35. パソコン必要度	必要	36. 資格等／本科目受講が必要となる資格等／資格取得該当科目		☑																																																			
37. 教員相互参観授業公開日程				□																																																			
38. オフィスアワー	自大学 学生向け	事前にメール(isugita@kochi-u.ac.jp)で連絡をお願いいたします。 授業公開毎に、オフィスアワー動画を設定しています。授業回ごとに提出する課題の中に、授業に関わる疑問・質問などわからないことについて、記述してください。動画では、いただいた記述をフィードバックします。		☑																																																			
38. オフィスアワー	連携大学 学生向け	Zoom等のweb対応できる場合のみ 事前にメール(isugita@kochi-u.ac.jp)で連絡をお願いいたします。 授業公開毎に、オフィスアワー動画を設定しています。授業回ごとに提出する課題の中に、授業に関わる疑問・質問などわからないことについて、記述してください。動画では、いただいた記述をフィードバックします。		☑																																																			
39. 連絡先／学生相談場所／学生開示用メール	自大学 学生向け	isugita@kochi-u.ac.jp		☑																																																			
	連携大学 学生向け	isugita@kochi-u.ac.jp		☑																																																			
40. 教員の実務経験について	学校現場の実務経験を持つ教員が、組織開発等において求められる人を助ける力であるピア・サポートの力全般を身に付けるための授業を行う。			☑																																																			

41. バリアフリー対応	なし	<input checked="" type="checkbox"/>
40. その他／備考		<input type="checkbox"/>

2023年2月改訂

シラバス基本情報

1. 開講年度	2024		2. 開講学期	第1学期	
3. 開講学部・学科等 ／区分等	共通教育		4. 授業形態／授業種 別	eラーニング	
5. 授業科目区分／科 目分野／科目区分／ 区分等	2023年度以前 教養科目社会分野 2024年度以降 人文・社会科学系領域		6. DPコード／分野コ ード／科目ナンバリング		
7. 科目名／科目英文 名／英文併記	(日本語名) マンガと社会 (英文名) Manga and Society				
8. 副題(日本語・英 語)	(日本語名) マンガを活用した地域の振興と発展 (英文名) Promotion and Development of the Region using Manga				
9. 担当教員名(教員 ローマ字表記)	(日本語) 岩崎 保道 (ローマ字) IWASAKI, Yasumichi				
10. 時間割コード／申 請コード／授業コード			11. 昼夜		
12. 単位数	2		13. 選必区分／単位区 分	なし	
14. 対象学生	全学部全学科		15. 対象年次／区分等 ／標準履修年次	全学部全学科	
16. 曜日・時限	なし		17. 講義室		
18. 履修推奨科目	自大学 学生向け	なし	19. 関連科目(関連科 目コード番号)	自大学 学生向け	なし
	連携大学 学生向け	なし		連携大学 学生向け	なし
20. 授業のキーワード ／英文キーワード (3 つ以上5つ以下)	マンガ(漫画、まんが) コミック 文化政策 地域振興 Manga, Comic, Cultural Policy, Regional Promotion				
21. 授業概要	<p>近年、マンガは文化や産業の振興に一定の役割を果たすなど、社会的に影響を持つようになり、海外にもマンガ文化が発信され注目されています。このような背景の下、マンガに関わる政策的な取り組みや、マンガを地域の活性化に活用するなど、多種多様な活動が盛んに行われています。</p> <p>一方、マンガに関わる教育研究が深化しており、学術研究の分野を築いています。当授業は、このような身近な存在であるマンガの歴史的な発展をはじめ、文化・産業面での動向や地域振興への活用状況などを解説します。また、高知県が多くのマンガ家を輩出してきたことや、マンガに関わる取り組みの先進県であることを踏まえ、四国4県のマンガ事情を紹介します。</p> <p>以上の趣旨により、具体的なテーマとして「マンガの歴史」「マンガを活用した地域振興」「マンガに関わる学術研究」「マンガ産業の動向」「高知県、愛媛県、香川県、徳島県に関わるマンガ家」などを取り上げます。</p>				<input checked="" type="checkbox"/>
22. 授業の目的及び 主旨／授業科目の主 題	(1) マンガの歴史的発展や社会的役割を理解する (2) マンガを活用した地域振興の状況を理解する (3) マンガの学術的成果を把握する (4) 高知県、愛媛県、香川県、徳島県のマンガ事情を把握する				<input checked="" type="checkbox"/>
23. 授業の到達目標 ／学修課題	(1) マンガの歴史的発展や社会的役割が理解できるようになる (2) マンガを活用した地域振興の状況が理解できるようになる (3) 高知県、愛媛県、香川県、徳島県のマンガ事情が説明できるようになる				<input checked="" type="checkbox"/>

24. ディプロマ・ポリシー (卒業時の到達目標・共通教育の理念・教育方針に関わる項目)	
25. カリキュラムマップ (授業科目の主題・授業科目の到達目標とカリキュラムマップ)	
26. 授業スケジュール ／授業計画並びに授業及び学習の方法	<p>第1回 ガイダンス (本講義の概要説明)</p> <p>第2回 マンガの歴史(1) (江戸時代から大正時代までのマンガに関わる歴史)</p> <p>第3回 マンガの歴史(2) (昭和時代以降のマンガに関わる動向について)</p> <p>第4回 文化政策とマンガ (国や地方都市におけるマンガに関わる文化政策)</p> <p>第5回 マンガ・アニメを活用した地域振興(1)イベント (マンガ・アニメに関わるイベントやその効果について)</p> <p>第6回 マンガ・アニメを活用した地域振興(2)コンテンツツーリズム (コンテンツツーリズムの動向や実例の紹介)</p> <p>第7回 マンガに関わる施設 (マンガに関わる施設の目的や機能について)</p> <p>第8回 マンガを活用した地域振興に関するレポート (受講生がマンガに関わる地域振興等の状況を調査して報告する)</p> <p>第9回 マンガの研究 (マンガに関わる研究機関や研究成果)</p> <p>第10回 マンガを教育する大学 (マンガに関わる大学教育の紹介)</p> <p>第11回 マンガ産業の動向 (コミック等の売り上げの推移や、業界の課題など)</p> <p>第12回 高知県のマンガ事情 (高知県出身のマンガ家や作品について)</p> <p>第13回 愛媛県、香川県、徳島県のマンガ事情 (各県出身のマンガ家や作品について)</p> <p>第14回 マンガとチカラと未来 (マンガの利活用とコミック工学)</p> <p>第15回 受講生の発表 (マンガと社会に関するもの)</p>
27. 授業時間外学習にかかわる情報	<p>受講生に対しては、関連資料の収集及びその予備学習を望みます。また、毎回の授業内容を復習し、理解を深めておく必要があります。具体的には、各回の授業テーマに則した状況調査や分析など、週に4時間程度の考察が求められます。また、関心を持った事項を自主的に調べるなど積極的な学習</p>



	態度で学んでください。					
28. 成績評価の方法と基準	<p>評価基準: 下記の平常点及びレポート試験が達成目標に達しているか総合的に判断します。</p> <p>評価方法: 授業に対する積極性や小レポート(50点)、レポート試験(50点)とします。定期試験に代えてレポート試験を課します。単位取得条件として、合計60点以上を取得する必要があります。なお、モジュール内の学修が出席に相当します。</p>				<input checked="" type="checkbox"/>	
29. 再試験の有無	自大学学生向け	なし			<input checked="" type="checkbox"/>	
	連携大学学生向け	なし			<input checked="" type="checkbox"/>	
30. 受講の条件／先行科目／受講人数制限	<p>受講人数制限: あり・</p> <p>香川大学80名・徳島大学80名・鳴門教育大学10名・高知大学250名・愛媛大学80名</p>				<input checked="" type="checkbox"/>	
31. 受講のルール履修上の注意・担当教員からのメッセージ／履修希望学生に求めるもの	<p>【コメント】</p> <p>マンガが社会に浸透していることを背景として、マンガの社会的な役割が見直されています。例えば、文化や地域の振興に役立てられ公益的な側面でも取り入れられるようになりました。また、マンガが文化政策のなかに取り入れられていたり、イベントなどの地域振興にマンガが活用されています。マンガは私たちに楽しみや喜び、時には学びや癒しをもたらしてくれる存在であり、日常に溶け込んでいるものと言えるでしょう。</p> <p>マンガが果たす役割などを様々な観点で学ぶことは、マンガの存在意義や在り方を確認することを通じて、豊かな社会環境づくりに寄与する考察になると考えます。このように、マンガは多様な側面を持っていますが、ご存じない事柄があるかもしれません。その意味において、この授業を通じて、マンガに関わる新たな知見や学びを得ることができると思います。</p> <p>マンガの社会的な在り方に関心を持つ学生の積極的な参加を期待します。以上のことから、マンガに関わる基礎的な知識や近年の動向について、事前学習を踏まえ自分の考えを整理しておくことを望みます。私たちの日常の中で、マンガが社会にどのように関わり、影響しているのか授業を通じて多く学んでいただきたいです。この分野に関心を持つ学生の積極的な参加を期待します。なお、当授業は専門知識を持たない方にも分かりやすく説明します。</p> <p>【注意点】</p> <p>授業方法はビデオ(または課題の提示)を主として教科書を使いながら授業を進めていきます。また、当授業では学生の疑問を受け付けて、それに対する回答を行うことにより理解を高めます。各回の授業において求める小レポート等の提出は必須であり、対面式授業の出席に該当します。そのため、(15回の授業のうち)10回以上の提出が確認できない場合、単位取得の条件を満たさないことになるので注意してください。</p>				<input checked="" type="checkbox"/>	
32. 教科書(購入の必要のある図書)	教科書1	書名	『マンガと社会』		<input checked="" type="checkbox"/>	
		ISBN	4910284168	著者名		岩崎保道
		出版社	高知新聞総合印刷	出版年		2022年
		金額	2,200円	備考		紙媒体と電子書籍の両方で販売(いずれかを購入)
33. 教科書・参考書に関する補足情報	参考書1	書名		著者名		<input checked="" type="checkbox"/>
		ISBN		出版年		
		出版社		出版年		

		金額		備考			
	参考書2	書名					
		ISBN		著者名			
		出版社		出版年			
		金額		備考			
	参考書3	書名					
		ISBN		著者名			
		出版社		出版年			
金額			備考				
34. Webテキスト (URL・説明)	大学連携e-Learning教育支援センター四国(知プラ)ウェブサイト https://chipla-e.ucel.kagawa-u.ac.jp/					<input checked="" type="checkbox"/>	
35. パソコン必要度	必要	36. 資格等／本科目受 講が必要となる資格等 ／資格取得該当科目		なし		<input checked="" type="checkbox"/>	
37. 教員相互参観授 業公開日程						<input checked="" type="checkbox"/>	
38. オフィスアワー	自大学 学生向け	あらかじめ電子メール(yiwasaki@kochi-u.ac.jp)にて予約すること 岩崎研究室(高知大学 教育学部1号館5階)				<input checked="" type="checkbox"/>	
	連携大学 学生向け	なし				<input checked="" type="checkbox"/>	
39. 連絡先／学生相 談場所／学生開示用 メール	自大学 学生向け	電子メール(yiwasaki@kochi-u.ac.jp)にて連絡すること				<input checked="" type="checkbox"/>	
	連携大学 学生向け	電子メール(yiwasaki@kochi-u.ac.jp)にて連絡すること				<input checked="" type="checkbox"/>	
40. 教員の実務経験 について	なし					<input checked="" type="checkbox"/>	
41. バリアフリー対応	授業動画は全て字幕付き					<input checked="" type="checkbox"/>	
42. その他／備考	なし					<input checked="" type="checkbox"/>	

シラバス基本情報

1. 開講年度	2024		2. 開講学期	第1学期	
3. 開講学部・学科等 ／区分等	農林海洋科学部		4. 授業形態／授業種別	eラーニング	
5. 授業科目区分／科目分野／科目区分／区分等	専門教育 専門科目		6. DPコード／分野コード／科目ナンバリング		
7. 科目名／科目英文名／英文併記	(日本語名) 海洋地球科学概論 Marine Geoscience				
8. 副題(日本語・英語)	(日本語名) 知られざる「海洋」の理解と地球における役割 (英文名) Oceanography and Earth Science				
9. 担当教員名(教員ローマ字表記)	(日本語) 村山 雅史 (ローマ字) MURAYAMA Masafumi				
10. 時間割コード／申請コード／授業コード			11. 昼夜		
12. 単位数	2		13. 選必区分／単位区分	なし	
14. 対象学生	全学部全学科		15. 対象年次／区分等／標準履修年次	1年生	
16. 曜日・時限	なし		17. 講義室		
18. 履修推奨科目	自大学 学生向け	地球科学入門, 地球科学概論	19. 関連科目(関連科目コード番号)	自大学 学生向け	地球科学入門(04035) 地球科学概論(80915)
	連携大学 学生向け	なし		連携大学 学生向け	なし
20. 授業のキーワード／英文キーワード(3つ以上5つ以下)	海洋の動態, 海洋地球科学, 生物地球化学サイクル, 地球環境 Oceanography, Marine Geoscience, Biogeochemical Cycle, Earth Environments				
21. 授業概要	太陽系惑星で唯一存在する海洋の成り立ちと役割について学び, 地球規模での様々な物質循環や気候変動について理解する。				<input checked="" type="checkbox"/>
22. 授業の目的及び主旨／授業科目の主題	受講生は, 地球表層環境における海洋の果たす役割をよりよく理解するために, 海の成り立ち, 海水の循環と物質循環, 海底の動きや地球内部動態, 堆積物に刻まれた地球環境の歴史と生命の進化に関する事を学ぶ。とくに, 海洋の成り立ちや地球誕生から表層圏(大気圏, 水圏, 地圏, 生物圏)の生命進化の過程で, 海洋の果たしてきた役割を理解する。				<input checked="" type="checkbox"/>
23. 授業の到達目標／学修課題	海洋学の理解, 地球科学の理解, 地球表層環境の理解, 学習手法の理解				<input checked="" type="checkbox"/>
24. ディプロマ・ポリシー(卒業時の到達目標・共通教育の理念・教育方針に関わる項目)					

25. カリキュラムマップ(授業科目の主題・授業科目の到達目標とカリキュラムマップ)			
26. 授業スケジュール／授業計画並びに授業及び学習の方法	<p>【授業スケジュール】</p> <p>第1回 地球における海洋の役割</p> <p>第2回 海はどのように形成されたか？</p> <p>第3回 海水の性質</p> <p>第4回 海の循環</p> <p>第5回 海の循環にともなう物質循環</p> <p>第6回 海底地形</p> <p>第7回 海底堆積物の種類I</p> <p>第8回 海底堆積物の種類II</p> <p>第9回 海洋観測(手法, 歴史, 船の生活)について</p> <p>第10回 海洋底に記録される環境の記憶</p> <p>第11回 新生代気候変動「地球寒冷化」</p> <p>第12回 地球温暖化と海洋酸性化</p> <p>第13回 プレートテクトニクス</p> <p>第14回 海底下生命圏の研究</p> <p>第15回 海底資源(メタンハイドレート)</p>		☑
27. 授業時間外学習にかかわる情報	参考図書を熟読すること, 受講ノートの復習		☑
28. 成績評価の方法と基準	<p>各講義の終了後に講義内容に関する10点満点の小テストをLMS上で実施する。定められた期限内に15回の講義コンテンツのうち最低10回以上の講義を聴き, 小テストに解答することが必須条件である。</p> <p>15回の講義終了時に, 15回の小テストの合計点(150点満点)を100点満点に換算して評価する。</p> <p>なお期末試験は実施しない。</p>		☑
29. 再試験の有無	自大学学生向け	なし	☑
	連携大学学生向け	なし	
30. 受講の条件／先行科目／受講人数制限	<p>受講人数制限:あり</p> <p>香川大学10名・徳島大学10名・鳴門教育大学10名・高知大学なし・愛媛大学10名</p>		☑
31. 受講のルール履修上の注意・担当教員からのメッセージ／履修希望学生に求めるもの	<p>e-learning形式の講義であるため, 履修に必要な手続きをしておく必要がある。講義コンテンツはmoodle(LMS)システムを通して配信するので, moodleの使い方等について十分理解しておくこと。また, ノートを準備し, 受講中に要点や専門用語を書き留めて, 自分なりの講義ノートを作成すること。理解できなかった箇所は, 推薦図書を参考に必ず復習をおこなうこと。</p>		☑

32. 教科書(購入の必要のある図書)	<table border="1"> <tbody> <tr> <td rowspan="4">教科書1</td> <td>書名</td> <td colspan="3"></td> </tr> <tr> <td>ISBN</td> <td></td> <td>著者名</td> <td></td> </tr> <tr> <td>出版社</td> <td></td> <td>出版年</td> <td></td> </tr> <tr> <td>金額</td> <td></td> <td>備考</td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	教科書1	書名				ISBN		著者名		出版社		出版年		金額		備考		□																																																																																																						
教科書1	書名																																																																																																																								
	ISBN			著者名																																																																																																																					
	出版社			出版年																																																																																																																					
	金額		備考																																																																																																																						
33. 教科書・参考書に関する補足情報	<table border="1"> <tbody> <tr> <td rowspan="4">参考書1</td> <td>書名</td> <td colspan="3">海洋地球化学</td> </tr> <tr> <td>ISBN</td> <td>978-4-06-155237-1</td> <td>著者名</td> <td>蒲生俊敬編</td> </tr> <tr> <td>出版社</td> <td>講談社サイエンティフィック</td> <td>出版年</td> <td>2014</td> </tr> <tr> <td>金額</td> <td>4,600</td> <td>備考</td> <td></td> </tr> <tr> <td rowspan="4">参考書2</td> <td>書名</td> <td colspan="3">海洋地球環境学—生物地球化学循環から読む</td> </tr> <tr> <td>ISBN</td> <td>978-4-13-060752-0</td> <td>著者名</td> <td>川幡穂高</td> </tr> <tr> <td>出版社</td> <td>東大出版会</td> <td>出版年</td> <td>2011</td> </tr> <tr> <td>金額</td> <td>3,600</td> <td>備考</td> <td></td> </tr> <tr> <td rowspan="4">参考書3</td> <td>書名</td> <td colspan="3">地球・惑星・生命</td> </tr> <tr> <td>ISBN</td> <td>978-4-13-063715-2</td> <td>著者名</td> <td>日本地球惑星科学連合</td> </tr> <tr> <td>出版社</td> <td>東大出版会</td> <td>出版年</td> <td>2020</td> </tr> <tr> <td>金額</td> <td>2,300</td> <td>備考</td> <td></td> </tr> <tr> <td rowspan="4">参考書4</td> <td>書名</td> <td colspan="3">地質学I: 地球のダイナミクス</td> </tr> <tr> <td>ISBN</td> <td>4-00-006240-9</td> <td>著者名</td> <td>平 朝彦</td> </tr> <tr> <td>出版社</td> <td>岩波書店</td> <td>出版年</td> <td>2001</td> </tr> <tr> <td>金額</td> <td></td> <td>備考</td> <td></td> </tr> <tr> <td rowspan="4">参考書5</td> <td>書名</td> <td colspan="3">地質学II: 地層の解読</td> </tr> <tr> <td>ISBN</td> <td>4-00-006241-7</td> <td>著者名</td> <td>平 朝彦</td> </tr> <tr> <td>出版社</td> <td>岩波書店</td> <td>出版年</td> <td>2004</td> </tr> <tr> <td>金額</td> <td></td> <td>備考</td> <td></td> </tr> <tr> <td rowspan="4">参考書6</td> <td>書名</td> <td colspan="3">地質学III: 地球史の探求</td> </tr> <tr> <td>ISBN</td> <td>4-00-006242-8</td> <td>著者名</td> <td>平 朝彦</td> </tr> <tr> <td>出版社</td> <td>岩波書店</td> <td>出版年</td> <td>2007</td> </tr> <tr> <td>金額</td> <td></td> <td>備考</td> <td></td> </tr> <tr> <td rowspan="4">参考書7</td> <td>書名</td> <td colspan="3"></td> </tr> <tr> <td>ISBN</td> <td></td> <td>著者名</td> <td></td> </tr> <tr> <td>出版社</td> <td></td> <td>出版年</td> <td></td> </tr> <tr> <td>金額</td> <td></td> <td>備考</td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	参考書1	書名	海洋地球化学			ISBN	978-4-06-155237-1	著者名	蒲生俊敬編	出版社	講談社サイエンティフィック	出版年	2014	金額	4,600	備考		参考書2	書名	海洋地球環境学—生物地球化学循環から読む			ISBN	978-4-13-060752-0	著者名	川幡穂高	出版社	東大出版会	出版年	2011	金額	3,600	備考		参考書3	書名	地球・惑星・生命			ISBN	978-4-13-063715-2	著者名	日本地球惑星科学連合	出版社	東大出版会	出版年	2020	金額	2,300	備考		参考書4	書名	地質学I: 地球のダイナミクス			ISBN	4-00-006240-9	著者名	平 朝彦	出版社	岩波書店	出版年	2001	金額		備考		参考書5	書名	地質学II: 地層の解読			ISBN	4-00-006241-7	著者名	平 朝彦	出版社	岩波書店	出版年	2004	金額		備考		参考書6	書名	地質学III: 地球史の探求			ISBN	4-00-006242-8	著者名	平 朝彦	出版社	岩波書店	出版年	2007	金額		備考		参考書7	書名				ISBN		著者名		出版社		出版年		金額		備考		☑
参考書1	書名		海洋地球化学																																																																																																																						
	ISBN		978-4-06-155237-1	著者名	蒲生俊敬編																																																																																																																				
	出版社		講談社サイエンティフィック	出版年	2014																																																																																																																				
	金額	4,600	備考																																																																																																																						
参考書2	書名	海洋地球環境学—生物地球化学循環から読む																																																																																																																							
	ISBN	978-4-13-060752-0	著者名	川幡穂高																																																																																																																					
	出版社	東大出版会	出版年	2011																																																																																																																					
	金額	3,600	備考																																																																																																																						
参考書3	書名	地球・惑星・生命																																																																																																																							
	ISBN	978-4-13-063715-2	著者名	日本地球惑星科学連合																																																																																																																					
	出版社	東大出版会	出版年	2020																																																																																																																					
	金額	2,300	備考																																																																																																																						
参考書4	書名	地質学I: 地球のダイナミクス																																																																																																																							
	ISBN	4-00-006240-9	著者名	平 朝彦																																																																																																																					
	出版社	岩波書店	出版年	2001																																																																																																																					
	金額		備考																																																																																																																						
参考書5	書名	地質学II: 地層の解読																																																																																																																							
	ISBN	4-00-006241-7	著者名	平 朝彦																																																																																																																					
	出版社	岩波書店	出版年	2004																																																																																																																					
	金額		備考																																																																																																																						
参考書6	書名	地質学III: 地球史の探求																																																																																																																							
	ISBN	4-00-006242-8	著者名	平 朝彦																																																																																																																					
	出版社	岩波書店	出版年	2007																																																																																																																					
	金額		備考																																																																																																																						
参考書7	書名																																																																																																																								
	ISBN		著者名																																																																																																																						
	出版社		出版年																																																																																																																						
	金額		備考																																																																																																																						
34. Webテキスト(URL・説明)	<p>大学連携e-Learning教育支援センター四国(知プラ)ウェブサイト https://chipla-e.ucel.kagawa-u.ac.jp/</p>	☑																																																																																																																							

35. パソコン必要度	必要	36. 資格等／本科目受講が必要となる資格等／資格取得該当科目	なし	<input checked="" type="checkbox"/>
37. 教員相互参観授業公開日程				<input type="checkbox"/>
38. オフィスアワー	自大学 学生向け	メール(murayama@kochi-u.ac.jp)にて、要予約。授業の前後にも受け付けます		<input checked="" type="checkbox"/>
	連携大学 学生向け	moodle(e-learningシステム)上の専用掲示板「お知らせ」を利用し連絡すること		<input checked="" type="checkbox"/>
39. 連絡先／学生相談場所／学生開示用メール	自大学 学生向け	moodle(e-learningシステム)上の専用掲示板「お知らせ」を利用すること		<input checked="" type="checkbox"/>
	連携大学 学生向け	moodle(e-learningシステム)上の専用掲示板「お知らせ」を利用すること		<input checked="" type="checkbox"/>
40. 教員の実務経験について	なし			<input checked="" type="checkbox"/>
41. バリアフリー対応	なし			<input checked="" type="checkbox"/>
42. その他／備考				<input type="checkbox"/>

2023年2月改訂

シラバス基本情報

1. 開講年度	2024		2. 開講学期	第1学期	
3. 開講学部・学科等 ／区分等	共通教育		4. 授業形態／授業種 別	eラーニング	
5. 授業科目区分／科 目分野／科目区分／ 区分等	2023年度以前 教養科目自然分野 2024年度以降 自然科学系領域		6. DPコード／分野コ ード／科目ナンバリング		
7. 科目名／科目英文 名／英文併記	(日本語名) 気象学入門 (英文名) Introduction to meteorology				
8. 副題(日本語・英 語)	(日本語名)なし (英文名)なし				
9. 担当教員名(教員 ローマ字表記)	(日本語)佐々 浩司 (ローマ字) SASSA Koji				
10. 時間割コード／申 請コード／授業コード			11. 昼夜		
12. 単位数	2		13. 選必区分／単位区 分	選択	
14. 対象学生	全学部全学科		15. 対象年次／区分等 ／標準履修年次	1年生以上	
16. 曜日・時限	なし		17. 講義室		
18. 履修推奨科目	自大学 学生向け	なし	19. 関連科目(関連科 目コード番号)	自大学 学生向け	なし
	連携大学 学生向け	なし		連携大学 学生向け	なし
20. 授業のキーワード ／英文キーワード(3 つ以上5つ以下)	気象、天気予報、気象災害 meteorology, weather report, meteorological disaster				
21. 授業概要	気象に関わる様々な現象は大気の運動や状態変化に伴って発生する。地球上の大気の動きをシミュレーションや演示実験などにより説明するとともに、雨雲のできる様子、気象災害の起こる原因や、天気図の見方などについて解説する。				<input checked="" type="checkbox"/>
22. 授業の目的及び 主旨／授業科目の主 題	天気の変り変わりにおける大まかなメカニズムを理解するとともに気象学を学ぶ基礎的知識を身につける。さらに天気予報で示される天気図や様々なデータからどのようなことが把握できるのか理解する。				<input checked="" type="checkbox"/>
23. 授業の到達目標 ／学修課題	日本における天気の大まかな動きを理解し、天気予報やレーダーデータなどの気象情報を的確に把握できる。				<input checked="" type="checkbox"/>
24. ディプロマ・ポリシ ー(卒業時の到達目 標・共通教育の理念・ 教育方針に関わる項 目)					
25. カリキュラムマッ プ(授業科目の主題・ 授業科目の到達目標 とカリキュラムマップ)					

26. 授業スケジュール／授業計画並びに授業及び学習の方法	<ol style="list-style-type: none"> 1. 気象の様々なすがた 2. 天気と気候のとらえかた 3. 気象の時間的空間的な大きさ 4. 大気の気温分布と熱のやりとり 5. 地球規模の流れ 6. 低気圧と高気圧 7. 熱帯低気圧: 台風 8. 風の吹き方、局地的な風 9. 天気図をみてみよう 10. 雲のできかたと雨 11. 豪雨 12. 強風と突風 13. 竜巻とダウンバースト 14. 地球温暖化とは 15. 気候変動と気象災害 	<input checked="" type="checkbox"/>																			
27. 授業時間外学習にかかわる情報	毎回の講義内容のまとめを行う	<input checked="" type="checkbox"/>																			
28. 成績評価の方法と基準	<p>毎回の講義内容に対する小テスト15回分 40点</p> <p>※小テストの詳細については、moodle上の各回の欄にて確認すること。</p> <p>5回分の内容の理解度を調べるレポート3回分 60点 合計100点で評価する。</p> <p>ただし、毎回の講義内容に対する小テストの受講が10回未満のものについては、5回分の内容の理解度を調べるレポートの提出回数に関わりなく、最終的な成績評価を0～59点で行う。</p>	<input checked="" type="checkbox"/>																			
29. 再試験の有無	自大学学生向け	なし	<input checked="" type="checkbox"/>																		
	連携大学学生向け	なし																			
30. 受講の条件／先行科目／受講人数制限	<p>受講の条件: 気象に興味があること。</p> <p>受講人数制限: あり</p> <p>香川大学20名・徳島大学20名・鳴門教育大学20名・高知大学制限なし・愛媛大学20名</p>		<input checked="" type="checkbox"/>																		
31. 受講のルール履修上の注意・担当教員からのメッセージ／履修希望学生に求めるもの	日頃から天気予報を見る習慣や空を見る習慣をつけておくと良いと思います。		<input checked="" type="checkbox"/>																		
32. 教科書(購入の必要のある図書)	<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td rowspan="4" style="width: 15%; text-align: center; vertical-align: middle;">教科書1</td> <td style="width: 15%;">書名</td> <td colspan="3"></td> </tr> <tr> <td>ISBN</td> <td></td> <td style="width: 15%;">著者名</td> <td></td> </tr> <tr> <td>出版社</td> <td></td> <td>出版年</td> <td></td> </tr> <tr> <td>金額</td> <td></td> <td>備考</td> <td></td> </tr> </table>			教科書1	書名				ISBN		著者名		出版社		出版年		金額		備考		<input type="checkbox"/>
教科書1	書名																				
	ISBN		著者名																		
	出版社		出版年																		
	金額		備考																		

33. 教科書・参考書に関する補足情報	参考書1	書名	一般気象学 第2版補訂版			□
		ISBN	978-4-13-062725-2	著者名	小倉義光	
		出版社	東京大学出版会	出版年	2016	
		金額	2800円＋税	備考	専門向きでやや高度です。	
	参考書2	書名				
		ISBN		著者名		
		出版社		出版年		
		金額		備考		
	参考書3	書名				
		ISBN		著者名		
		出版社		出版年		
		金額		備考		
34. Webテキスト (URL・説明)	moodle上に掲載 大学連携e-Learning教育支援センター四国(知プラ)ウェブサイト https://chipla-e.ucel.kagawa-u.ac.jp/				☑	
35. パソコン必要度	必要	36. 資格等／本科目受講が必要となる資格等 ／資格取得該当科目	なし		☑	
37. 教員相互参観授業公開日程					□	
38. オフィスアワー	自大学 学生向け	10時～12時、13時半～18時のうち、講義時間以外(要事前確認) メールも可。ただし、土日祝日および平日夜10時以降朝6時までのメールは一切受け付けず、破棄します。Moodleのメッセージは見えていません。			☑	
	連携大学 学生向け	原則としてメールによる問い合わせ。ただし、土日祝日および平日夜10時以降朝6時までのメールは一切受け付けず、破棄します。Moodleのメッセージは見えていません。 sassa@kochi-u.ac.jp			☑	
39. 連絡先／学生相談場所／学生開示用メール	自大学 学生向け	研究室(理工学部1号館108室) sassa@kochi-u.ac.jp			☑	
	連携大学 学生向け	sassa@kochi-u.ac.jp			☑	
40. 教員の実務経験について	なし				☑	
41. バリアフリー対応	なし				☑	
42. その他／備考	なし				☑	

シラバス基本情報

1. 開講年度	2024		2. 開講学期	2学期	
3. 開講学部・学科等 ／区分等	共通教育		4. 授業形態／授業種 別	eラーニング	
5. 授業科目区分／科 目分野／科目区分／ 区分等	2023年度以前 教養科目社会分野 2024年度以降 人文・社会科学系領域		6. DPコード／分野コー ド／科目ナンバリング		
7. 科目名／科目英文 名／英文併記	(日本語名)消費生活入門 (英文名)Introduction to Consumption Life				
8. 副題(日本語・英 語)	(日本語名) (英文名)				
9. 担当教員名(教員 ローマ字表記)	(日本語)小島 郷子 (ローマ字)KOJIMA Kyoko				
10. 時間割コード／申 請コード／授業コード			11. 昼夜		
12. 単位数	1		13. 選必区分／単位区 分	なし	
14. 対象学生	全学部全学科		15. 対象年次／区分等 ／標準履修年次	なし	
16. 曜日・時限	なし		17. 講義室		
18. 履修推奨科目	自大学 学生向け	なし	19. 関連科目(関連科 目コード番号)	自大学 学生向け	なし
	連携大学 学生向け	なし		連携大学 学生向け	なし
20. 授業のキーワード ／英文キーワード(3 つ以上5つ以下)	消費者 消費生活 SDGs Consumer, Consumption Life, Sustainable Development Goals				
21. 授業概要	新しい経済社会の消費者像や消費者としての役割を理解するとともに、消費者としてSDGsの目標を達成し、持続可能な社会を形成するためにできることについて考える。				<input checked="" type="checkbox"/>
22. 授業の目的及び 主旨／授業科目の主 題	新しい経済社会に必要な消費者像について理解する。 消費者一人一人が果たす役割を理解する。 地球環境の視点から、持続可能な社会に向けた消費、消費行動のあり方について考える。				<input checked="" type="checkbox"/>
23. 授業の到達目標 ／学修課題	新しい経済社会の消費者像・役割を理解している 持続可能な社会に向けた消費、消費行動のあり方について考えることができる SDGsの17の目標を達成するために自分ができることがわかる				<input checked="" type="checkbox"/>
24. ディプロマ・ポリシ ー(卒業時の到達目 標・共通教育の理念・ 教育方針に関わる項 目)					

25. カリキュラムマップ(授業科目の主題・授業科目の到達目標とカリキュラムマップ)					
26. 授業スケジュール／授業計画並びに授業及び学習の方法	<p>授業計画</p> <p>※授業内容は変更になる可能性があります。</p> <p>1 イントロダクション・大衆消費社会と消費者問題</p> <p>2 消費者問題の変遷</p> <p>3 消費者の権利と責任</p> <p>4 SDGsとエンカル消費</p> <p>5 契約について</p> <p>6 保証契約について</p> <p>7 キャッシュレス社会における消費</p> <p>8 SDGsの目標達成のために自分ができること</p>			<input checked="" type="checkbox"/>	
27. 授業時間外学習にかかわる情報	<p>講義受講型ではないため、授業時間内・授業時間外という枠はありません。</p> <p>eラーニングシステム moodle上のコンテンツを確認した上で、提示された活動に取り組んでもらいます。</p>			<input checked="" type="checkbox"/>	
28. 成績評価の方法と基準	<p>毎回の課題 50%</p> <p>最終課題「SDGsの目標達成のために自分ができること」 50%</p> <p>なお、各回の学修活動が出席に相当します。</p> <p>単位修得のためには、合計60点以上を取得する必要があります。</p>			<input checked="" type="checkbox"/>	
29. 再試験の有無	自大学学生向け	なし		<input checked="" type="checkbox"/>	
	連携大学学生向け	なし			
30. 受講の条件／先行科目／受講人数制限	<p>受講人数制限:あり</p> <p>香川大学5名・徳島大学5名・鳴門教育大学5名・高知大学10名・愛媛大学5名</p>			<input checked="" type="checkbox"/>	
31. 受講のルール履修上の注意・担当教員からのメッセージ／履修希望学生に求めるもの	<p>授業時間という強制的な仕組みがないため、主体的に取り組む姿勢や、自分で計画を立てて持続できる自立力が重要になります。</p>			<input checked="" type="checkbox"/>	
32. 教科書(購入の必要のある図書)					<input type="checkbox"/>
	教科書1	書名			
		ISBN	著者名		
		出版社	出版年		
		金額	備考		

33. 教科書・参考書に関する補足情報	参考書1	書名				<input type="checkbox"/>
		ISBN		著者名		
		出版社		出版年		
		金額		備考		
	参考書2	書名				
		ISBN		著者名		
		出版社		出版年		
		金額		備考		
	参考書3	書名				
		ISBN		著者名		
		出版社		出版年		
		金額		備考		
34. Webテキスト (URL・説明)	大学連携e-Learning教育支援センター四国(知プラ)ウェブサイト https://chipla-e.ucel.kagawa-u.ac.jp/				<input checked="" type="checkbox"/>	
35. パソコン必要度	必要 moodleの操作ができること。	36. 資格等／本科目受講が必要となる資格等／資格取得該当科目	なし		<input checked="" type="checkbox"/>	
37. 教員相互参観授業公開日程					<input type="checkbox"/>	
38. オフィスアワー	自大学 学生向け	なし			<input checked="" type="checkbox"/>	
	連携大学 学生向け	なし			<input checked="" type="checkbox"/>	
39. 連絡先／学生相談場所／学生開示用メール	自大学 学生向け	kkojima@kochi-u.ac.jp			<input checked="" type="checkbox"/>	
	連携大学 学生向け	kkojima@kochi-u.ac.jp			<input checked="" type="checkbox"/>	
40. 教員の実務経験について	なし				<input checked="" type="checkbox"/>	
41. バリアフリー対応	動画は日本語字幕付き				<input checked="" type="checkbox"/>	
42. その他／備考	次年度以降の開講はありません。 moodleの使い方についての問い合わせ先: elmanabi@kochi-u.ac.jp				<input checked="" type="checkbox"/>	

シラバス基本情報

1. 開講年度	2024		2. 開講学期	第1学期	
3. 開講学部・学科等 ／区分等	共通教育		4. 授業形態／授業種 別	eラーニング	
5. 授業科目区分／科 目分野／科目区分／ 区分等	2023年度以前 教養科目自然分野 2024年度以降 自然科学系領域		6. DPコード／分野コー ド／科目ナンバリング		
7. 科目名／科目英文 名／英文併記	(日本語名) 有機化学概論 初級 (英文名) Introduction of Organic Chemistry for all Student				
8. 副題(日本語・英 語)	(日本語名) e-Learningで学ぶ有機化学入門 (英文名) Introduction of Organic Chemistry in e-Learning				
9. 担当教員名(教員 ローマ字表記)	(日本語) 立川 明 (ローマ字) Tatsukawa Akira				
10. 時間割コード／申 請コード／授業コード			11. 昼夜		
12. 単位数	2		13. 選必区分／単位区 分	選択	
14. 対象学生	全学部		15. 対象年次／区分等 ／標準履修年次	主に1年生	
16. 曜日・時限	オンデマンド		17. 講義室		
18. 履修推奨科目	自大学 学生向け	なし	19. 関連科目(関連科 目コード番号)	自大学 学生向け	なし
	連携大学 学生向け	なし		連携大学 学生向け	なし
20. 授業のキーワード ／英文キーワード(3つ 以上5つ以下)	有機化学 Organic Chemistry, 酸 Acid, 塩基 Base, 立体化学 Stereo Chemistry				
21. 授業概要	<p>有機化学の教科書を毎回1章, 教科書にそって化合物の名前, 分子の構造, 反応, 酸と塩基, 官能基, 生化学物質と医薬品の順で進めます。まず自分で教科書をよく読んでください。その上で説明文をノートに書いてみましょう。ノートの各章の見開きページを画像データにして提出すること(デジカメ, 携帯, スマホで撮影したものをjpegまたはpng形式のデータとして提出すること)。ノートに書く説明文には評価基準はありません。左側のページにはイメージマップを, 右側には説明文を書き, 自信作を提出してください。レポートとして提出する説明文には, 評価基準があります。1つの事柄を1文で具体的かつ簡潔に表現してください。異なるパラグラフから1文ずつ特に重要なものを選んで5つ(以上)をレポートとして提出します。</p> <p>レポートを提出したら, 章末テストを受験してください。章末テストは2回受験可能ですが, その場合, 平均点が成績となります。1回で全問正解を目指しましょう。全問正解した場合, 2回受験する必要はありません。</p> <p>章末テスト受験後, 追加資料を見てください。この中にも課題があります。必ず提出してください。提出期限は全て同じ設定にしていますので, レポート提出や章末試験の解答など, 少し余裕を見て取り組んでください。</p> <p>質問がある場合はフォーラムに書き込んでください。フォーラムへの書き込みに対して, 積極的にコメントを入れてください。</p>				
22. 授業の目的及び 主旨／授業科目の主 題	1. 目のまわりの現象について一般論や間違った情報に惑わされることなく, 自ら正しい判断ができるために必要な化学の知識を身につける。				

	<p>2. 論理的思考力, 説明力, 発問力を身につける。</p> <p>3. 有機化合物の構造が理解できる。</p>	
23. 授業の到達目標 ／学修課題	<p>教科書で扱われている有機化合物の名前が書ける。</p> <p>教科書で扱われている有機化合物の反応が正しく書き表せる。</p> <p>教科書で扱われている有機化合物の性質が説明できる。</p> <p>教科書で扱われている有機化合物の構造が正しく書き表せる。</p>	<input checked="" type="checkbox"/>
24. ディプロマ・ポリシー (卒業時の到達目標・共通教育の理念・教育方針に関わる項目)		
25. カリキュラムマップ (授業科目の主題・授業科目の到達目標とカリキュラムマップ)		
26. 授業スケジュール ／授業計画並びに授業及び学習の方法	<p>第1回 オリエンテーション, 受講の仕方</p> <p>第2回 1章 有機化学をなぜ学ぶのか</p> <p>第3回 2章 いろいろな有機化合物とその名前</p> <p>第4回 3章 有機化合物(分子)のなりたち</p> <p>第5回 4章 有機化合物のなりたちと基本骨格</p> <p>第6回 5章 有機化合物の立体構造</p> <p>第7回 6章 化学反応</p> <p>第8回 7章 酸と塩基</p> <p>第9回 8章 アルコールおよびエーテル</p> <p>第10回 9章 アルデヒドおよびケトン</p> <p>第11回 10章 カルボン酸とその誘導体</p> <p>第12回 11章 アミン</p> <p>第13回 12章 生体関連化合物1タンパク質と糖質</p> <p>第14回 13章 生体関連化合物2脂質と核酸</p> <p>第15回 14章 医薬品の化学構造</p> <p>第16回 期末試験</p>	<input checked="" type="checkbox"/>
27. 授業時間外学習 にかかわる情報	<p>【ノート画像提出】</p> <p>・レポートの準備学修のため, 作成したノートの各章の見開き2ページ(1枚)を画像データとして提出すること。ノートをデジカメ, 携帯電話, スマホなどで写真にとり, その画像データをMoodleに提出すること。</p> <p>【レポートの書き方】</p> <p>・準備として, 教科書を読み, パラグラフごとに説明文をノートに書いてみましょう。ノートに書く説明文に評価基準はありません。自由に書いてください。この中から, 5つを選んでレポートとして提出してもらいます。ただし, レポートには評価基準があります。評価基準に合うように書き換えてください。また, 異なるパラグラフから1文ずつを選ぶこと。</p> <p>・説明文は1文にひとつの事柄を, 具体的に書くこと。2つ以上の事柄を1文で書いてある場合や, 2つ以上の文章で説明している場合, 内容に間違いがある場合, 文法的な間違いがある場合は再提出を求</p>	<input checked="" type="checkbox"/>

	<p>めます。また、主語と述語がそろっていない場合も再提出とします。体言止めの箇条書きも再提出とします。</p> <p>*章末テストの正解の選択肢を書くつもりで書いて下さい。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・提出されたレポートにはコメントを返すので、コメントを見て参考とすること。 ・再提出が必要な場合には「再提出」と返します。 ・10点満点で評価点を記します。 ・レポートの最初の行には、タイトルを付けること。表紙は不要、タイトルはレポートの中身を表すものを自分で考えて付けること。2行目には自分の氏名、所属、学年を書くこと。1行空け、4行目から説明文を5つ書くこと。 ・レポートのファイル名は、学籍番号v章番号とすること。(例:b243c021v4.docx) ・レポートはWordまたはPagesで作成し、圧縮せずに提出すること。 ・レポートはすべて提出すること。提出していなかった場合、再提出が必要なのにしていなかった場合は未提出と同じ扱いとし、成績評価を行わない場合があります。 <p>【追加課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・追加資料には、課題がついています。この課題を追加課題として提出すること。フォーラムで解答する設問の場合、他の受講者の解答を見て、コメントを入れること。コメントは提出期限後1週間以内に書いて下さい。 <p>各章コンテンツに公開期間を設定しています。提出期限までに全ての課題を提出し、試験に解答しなければ合格点はつきません。</p> <ul style="list-style-type: none"> * 章末試験は2回解答可能です。2回解答した場合は平均点を成績とします。 * 締切後にレポートをチェックし、コメントを返します。コメントを確認してください。レポートは、サイエンスコミュニケーションの練習のために書くものです。そのための評価基準を設定していますので、オリエンテーション資料をよく読んで下さい。長い長いレポートを出す人がいますが、その場合は再提出にします。 					
<p>28. 成績評価の方法と基準</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ノート画像 10% ・毎回のレポート 20% ・追加課題, コメント 10% ・章末テスト 40% ・期末試験 20% <p>毎回の提出物に10点満点で評価点を付けます。14回分の平均点に上の重みづけをかけて成績に加点します。</p> <p>章末テストは毎回10点満点で採点されます。他の提出物と同様に平均点を出し、重みをかけて加点します。</p> <p>期末試験は20点満点で採点結果が表示されます。</p>	<input checked="" type="checkbox"/>				
<p>29. 再試験の有無</p>	<table border="1"> <tr> <td data-bbox="359 1868 587 1921">自大学学生向け</td> <td data-bbox="587 1868 1423 1921">なし</td> </tr> <tr> <td data-bbox="359 1921 587 1966">連携大学学生向け</td> <td data-bbox="587 1921 1423 1966">なし</td> </tr> </table>	自大学学生向け	なし	連携大学学生向け	なし	<input checked="" type="checkbox"/>
自大学学生向け	なし					
連携大学学生向け	なし					
<p>30. 受講の条件／先行科目／受講人数制限</p>	<p>受講人数制限:あり</p> <p>香川大学10名・徳島大学10名・鳴門教育大学10名・高知大学10名・愛媛大学10名</p>	<input checked="" type="checkbox"/>				

31. 受講のルール履修上の注意・担当教員からのメッセージ／履修希望学生に求めるもの	<p>やる気！！すべてオンデマンドで行います。この授業でセルフマネジメント力を身につけてください。 チャレンジ精神！</p> <p>大学生向け教養の有機化学の教科書を使いますので、高校の化学より少しレベルが高いですが、文系の人でも受講可能です。準備学修を前提として授業を進めますので、早めに学修をして分かり難いところは事前にフォーラムに投げてください。</p>			<input checked="" type="checkbox"/>																																																			
32. 教科書(購入の必要のある図書)	<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td rowspan="4" style="text-align: center; vertical-align: middle;">教科書1</td> <td style="width: 15%;">書名</td> <td colspan="3">「はじめて学ぶ有機化学」</td> </tr> <tr> <td>ISBN</td> <td>978-4-7598-1807-9</td> <td>著者名</td> <td>高橋秀依ほか</td> </tr> <tr> <td>出版社</td> <td>化学同人</td> <td>出版年</td> <td>2015年</td> </tr> <tr> <td>金額</td> <td>2200</td> <td>備考</td> <td></td> </tr> </table>			教科書1	書名	「はじめて学ぶ有機化学」			ISBN	978-4-7598-1807-9	著者名	高橋秀依ほか	出版社	化学同人	出版年	2015年	金額	2200	備考		<input checked="" type="checkbox"/>																																		
教科書1	書名	「はじめて学ぶ有機化学」																																																					
	ISBN	978-4-7598-1807-9	著者名		高橋秀依ほか																																																		
	出版社	化学同人	出版年		2015年																																																		
	金額	2200	備考																																																				
33. 教科書・参考書に関する補足情報	<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td rowspan="4" style="text-align: center; vertical-align: middle;">参考書1</td> <td style="width: 15%;">書名</td> <td colspan="3">HGS分子構造模型 有機化学学生用セット</td> </tr> <tr> <td>ISBN</td> <td>978-4-621-30129-6</td> <td>著者名</td> <td>丸善出版制作</td> </tr> <tr> <td>出版社</td> <td>丸善出版</td> <td>出版年</td> <td>2017</td> </tr> <tr> <td>金額</td> <td>2640</td> <td>備考</td> <td></td> </tr> <tr> <td rowspan="4" style="text-align: center; vertical-align: middle;">参考書2</td> <td>書名</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>ISBN</td> <td></td> <td>著者名</td> <td></td> </tr> <tr> <td>出版社</td> <td></td> <td>出版年</td> <td></td> </tr> <tr> <td>金額</td> <td></td> <td>備考</td> <td></td> </tr> <tr> <td rowspan="4" style="text-align: center; vertical-align: middle;">参考書3</td> <td>書名</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>ISBN</td> <td></td> <td>著者名</td> <td></td> </tr> <tr> <td>出版社</td> <td></td> <td>出版年</td> <td></td> </tr> <tr> <td>金額</td> <td></td> <td>備考</td> <td></td> </tr> </table>			参考書1	書名	HGS分子構造模型 有機化学学生用セット			ISBN	978-4-621-30129-6	著者名	丸善出版制作	出版社	丸善出版	出版年	2017	金額	2640	備考		参考書2	書名				ISBN		著者名		出版社		出版年		金額		備考		参考書3	書名				ISBN		著者名		出版社		出版年		金額		備考		<input checked="" type="checkbox"/>
参考書1	書名	HGS分子構造模型 有機化学学生用セット																																																					
	ISBN	978-4-621-30129-6	著者名		丸善出版制作																																																		
	出版社	丸善出版	出版年		2017																																																		
	金額	2640	備考																																																				
参考書2	書名																																																						
	ISBN		著者名																																																				
	出版社		出版年																																																				
	金額		備考																																																				
参考書3	書名																																																						
	ISBN		著者名																																																				
	出版社		出版年																																																				
	金額		備考																																																				
34. Webテキスト(URL・説明)	<p>大学連携e-Learning教育支援センター四国(知プラ)ウェブサイト https://chipla-e.ucl.kagawa-u.ac.jp/</p>			<input checked="" type="checkbox"/>																																																			
35. パソコン必要度	必要	36. 資格等／本科目受講が必要となる資格等／資格取得該当科目	なし	<input checked="" type="checkbox"/>																																																			
37. 教員相互参観授業公開日程				<input type="checkbox"/>																																																			
38. オフィスアワー	自大学 学生向け	moodle内のフォーラム使用		<input checked="" type="checkbox"/>																																																			
	連携大学 学生向け	moodle内のフォーラム使用		<input checked="" type="checkbox"/>																																																			
39. 連絡先／学生相談場所／学生開示用メール	自大学 学生向け	moodle内のフォーラム使用		<input checked="" type="checkbox"/>																																																			
	連携大学 学生向け	moodle内のフォーラム使用		<input checked="" type="checkbox"/>																																																			
40. 教員の実務経験	なし			<input checked="" type="checkbox"/>																																																			

41. バリアフリー対応	<p>特別な配慮が必要と認定を受けた学生には、個別に対応します。教材と提出物は全てテキストと図表ですので、聾啞者も受講可能です。軽度の視覚障害者も可能だと思いますが、重度な場合は難しいでしょう。テキストの読み上げソフトなどは各自で準備をお願いします。Moodle内のテキストは全てPDFです。読み上げソフトのために他のファイル形式が必要という人は個別に対応します。</p>	<input checked="" type="checkbox"/>
42. その他／備考		<input checked="" type="checkbox"/>

2023年2月改訂